

522
921



始





Henry Irving as King Lear.
"But goes heart with this?" Act 1, Sc. 1.

522-176



王

坪内逍遙

譯

13. 3. 29

購求

緒言

沙翁が此作を著し、確實なる年月は知るべからず。一六〇三年より一六〇六年までの間なるべきは、其最初の刊行本の表紙及び時の新刊書登録簿中に記せる所などによりて證することを得。作者四十三歳以前の作なるべし。

今日に傳はれる最も古き版本は、一六〇七年新刊目録記

入の四つ折本と一六〇八年記入の同形本と作者死後に
出でし最初の二つ折本との三種なるが、此中いづれを最
も正しとすべきかに就きては沙翁學者間に異論あり。
博士コッパアの説によれば、四つ折本には二つ折本に無き
詞句二百八十七行あり、されど二つ折本にもまた四つ折
本に無き句一百十行程ありといふ。而してかゝる添削
は、作者自身の手になりしや若しくは他人の所爲なりし
や明かならず。今日普通行はるゝ本文は、二つ折本に無
くして四つ折本に有り、四つ折本に無うして二つ折本に
有る所の詞句を、學者の校修を経て併せ存したるものな

れば、原作の全豹を示すものとしては遺憾なきに幾し。

時の新刊目録によれば、沙翁の此作以前に「リヤ王の歴史」
又は「リヤ王の悲劇」と題したる劇の脚本ありたれども、そ
れと沙翁が作との類似は、殆ど大體の筋立と主なる人名
との上にありて、要するに其材料が同じ史蹟たるに原因
するものゝ如し。蓋しリヤ王傳説は當時人口に膾炙せ
りし英國の古史譚にして、例のホリンシラドの英國史第
二卷に見えたり。其大要左の如し。

Baldud^{バルドウド}の男 Leis^{レイス} 父に代りてブリテイン人の主作者となる。時に世界の第三千一百〇五年なり。三女あり、Gorilla^{ゴリラ}、Regon^{リガン}、Cordia^{コイディア}といふ。リヤ其國を譲らんとして、先づ三女に、如何に深く父を愛するか、其志を語れと命す。ゴノリラとリガンとは辭を巧みにして、父に阿り、心にも無きことを言ふ。コオデイラは、わざと冷かに、只子たるの義務を盡さんとするのみと答ふ。リヤ大いに怒り、國を擧げてゴノリラとリガンとに與へ、且つ二人をコオンヲールの公爵ヘンニナスとアルバニヤの公爵マグレーナスとに嫁せしむ。時にガリヤ(今の佛國)の一君主アガニッバス

といふ者コオデイラの才色にあこがれて妃とせんことを申込む。化粧料さへもあらず、それにてもよくばとて嫁せしむ。王の老衰漸く加はるに及びて二公爵叛し、兵を擧げて全權を篡ひ、王には隱居扶持を給することゝす、しかも久しからずして約に背きて其額を減削す。王悲み歎く、とりわけ女等^{メスラ}の不孝不仁にして只一人の從者をだに供給しくれざるを悲む。王つひにガリヤ國に走る。妃コオデイラ之を知りて、先づ人を遣はして金錢被服を給し、やがて之を朝廷に迎ふ。かくてガリヤ王は海陸の兵を起して、親らブリテインに問罪す。戦ひ勝ちて、二公

爵を戰場に殺す。リヤ王位を復し、二年の後に歿す。三千一百五十五年、コオデイラ代りてブリテインの女王となる。賢君の聞えありき。五年の後、二姉の子マーガンとキュネダグとコオデイラの治下にあるを屑とせずして叛し、コオデイラの軍と戦うて、遂に之を虜とす。コオデイラ獄中に自殺す。云々。

沙翁以前の作たる「リヤの悲劇」は其筋立の單純なる點、コオデイラが戦ひ勝ちて、リヤが王位を復し、悪人悉く滅びて、萬事めでたく收まるといふ點、乃至沙翁作にては重要

なる事件とも人物とも曲折ともなれるリヤ狂亂の件、グロースター父子の件、王の侏儒に關する件の全く缺けたる、及び王の性格の沙翁作のとは違ひ、弱く女々しく、只哀れにのみ作られたる點などに於て、一段ホリンシェッドの史事實に接近せり。

沙翁の作は、副の筋として別に一傳説を取入れたり。それは沙翁と同時代の詩人フィリップ・シドニーの小説「アーケイディア」に見えたる話なり。曰く、ガラシヤ國の貴族等、ある嚴冬の日、獵に出で、あらしに遭ふ。亂霞を避けて一岩窟に入る。時に窟外に辿り著ける盲目の一老夫と一青

年とあり、聲高に言ひ争ふ。老人は世をはかなみ、死を決して、ある斷崖へ導かれんことを欲し、青年は之をいなむ、其結果、老人は青年に、此上は我を棄ておきて去れといふ、押問答あはれなり。貴族等感動して窟を出で、事の仔細を尋問す。最初に老人語り、後に青年語る。其物語によれば、老人はもとパフラゴニヤといふ國の王なりしが、不孝なる庶子の爲に國をも兩眼をも奪はれて流浪し、進退谷まりて自殺せんとせしを勘當せし嫡子に救はれしなり。されど子たる青年は少しもおのが功を語らず。父引取りて、悉く自己が過去の失行を懺悔す。すなはち妾

腹の子の愛に溺れて、其讒言を信じ、賊に命じて本妻腹の男子を深林中にて殺さしめんとせり。然るに賊之を憫み、ひそかに助けて逃れしむ。とかくする中に、庶腹の惡子は、家國の全權を掌握し、剩さへ父を盲目とならしめて放逐す。國人また老人の不仁を憎みて一人の之を助くるものなし。其結果、遂に自殺を思ひたちたり、云々。

沙翁は主として此二種の物語を材料として其脚色を設けたるが如し。假令舊き「リヤの悲劇」に負ふ所ありたりとも、そは要するに同じ材料たるに由來する大筋の上の

み。構想も修辭も人物の描寫も悉く別様のものたり。作者在世中には歓迎せられたりと覺ゆる此作も、何故にや其後久しく顧られざりしが、十八世紀に入りて、漸く復活の運に向へり。しかも尙當時の舞臺に上せられしものは、彼のドライデン一派の作家ネーハム・テートが改作に係るものなり。改作にては、本篇の最特色とすべき伴狂と眞狂と假狂との三狂者が雷電風雨の中に會談する奇想天來の一段は、悉く除き去られたるのみならず、侏儒と佛蘭西王との如きは、其名目をすらも止めざること、

なれり。筋立も著しく變はりをれり。フアネス氏が集注に載する所によりて其主なる廉々たゞを言はんには、序幕の初めに於て、グロースタアは既にエドガーを賊子として惡み、庶子エドマンドを偏愛しをれり。而して王其他の入來るに先だちて、エドガーとコオデリヤとの戀愛の件あり。すなはちコオデリヤが父の命に戻るは、一面婚を厭ふにありて、姉共の偽善を卑み惡む以外の動機に出づ。さてコオデリヤが父の怒に觸れて勘當の身となるや、エドガーあらためて婚を求む。コオデリヤは、今は最早國王の愛女にあらざればとて峻拒す。かくてコオデリヤ

があちこちと漂浪するうちグロースタア伯にめぐりあふことあり、又侍女某を伴ひてさまよふ間に、エドマンドの部下の悪漢二人の爲に襲はるゝことあり。エドガー狂人の假装にて其難を救ひ、とゞ本體を明し、相思を語りあふ件あり。つひにリヤとコオデリヤとは兵を起して不孝の子等を討たんとして敗戦し、ふたりながら獄に下さる。一部將兵卒をひきゐて獄中に來り、二人を縊らんとす。王、兵卒が携へたる矛を奪うて其二人を殺す。父子方に危き時、エドガーとアルバニーとが入來りて救ふ。こゝへケントもグロースタアも入來る。悪人悉く亡ぶ。

王は位をコオデリヤに譲りてケントと共に靜かに餘生を送るべしといふ。すなはち「めでたし」に終るなり。

一八三八年にマクレデーが、沙翁の原作たる「リヤ王」を演せしまでは、只此改作のみが行はれたりき。其間一百六十年なり。名優ガーリックもキーンもケンブルも其他も、皆な此改作によりてリヤを演じたりしなり。其中キーンは、後に大詰の幕だけを原作通りに引戻して演じたりといふ。原作全部を復活せしめしマクレデーと雖も、侏儒の役だけにはさすがに頭を傾け、悲劇を害ひはせずや

と危みし結果、其扮装を優美ならしめ、若き女優をして演
せしめき。爾來女優をして此役を演せしむること行は
れたりき。最近に於て、全く原作通りに演じて大當りを
博せしは先代アーギングのリヤ王、エレン・テリーのコオ
デリヤにて興行せしを最とすべし。

登場人名

ブリテインの王、リヤ。

フランス王。

バアガンデーの公爵。

コオンヨールの公爵。

アルバニーの公爵。

ケントの伯爵。

姉妹不詳

甲銀、良人

姉妹、良人

グロースタアの伯爵。

グロースタアの男、エドガー。

グロースタアの庶子、エドマンド。

阿呆 (侏儒)。

廷臣、キュラン。

グロースタアの配下の民、老人。

侍醫。

ゴネリルの家令、オスワルド。

エドマンドに使はるゝ一部將。

コオデリヤに侍する一紳士。

傳令。

コオンヲールの家來數人。

ゴネリル。

ツヤの女リガン。

コオデリヤ。

其他、リヤに附隨せる武士等、部將等、使者等、兵士等侍者等。

場所
ブリテイン。



リヤ王

第一幕

リヤ王宮殿

ケント伯爵、グロスタア伯爵及び
グロスタアの庶子エドマンド出る。

ケント 王はコオンテールどのよりもアルバニー公爵
を一段御最良かと存じてをつたに。

グロー 始終そのやうにも見えてをりましたが、王國御分配の今日となつては、何
 らを最も御尊重やら分りませぬ。双方の御配當が如何にも精細に平等
 で、擇ぶことの出来ませんほどでござるから。

ケント (エドマンドを見て) あれは御子息でござるか？

グロー 養育いたいたは手前に相違ござらんが、あれを自分のちやと申すたびに毎
 々赧い顔をいたし、今ではもう慣れて鐵面皮になりました。

ケント お言葉が肚に入りかねます。

グロー ところが、此者のお袋の肚には入りましたので、それが大きうなり、寢床に
 臥す夫はまだ迎へも致さんうちに、搖籃に臥せる小さいのが出来ました。
 不品行をお察しなされたかな？

ケント 不品行も強ち咎めるには及びますまい、如是立派なのが出来て見れば。

グロー なれども手前には、正腹の、さればとて一段かはゆいと申す譯でもない作

がござる、此者よりは一年ほど年長の。此奴は、出て来いとも言はんうち
 に無作法に飛出した奴ではござれど、お袋、標致よしで、生ませるまでに
 は大ぶ面白いこともござつたことゆゑ、子でないとは申されませんわい。
 ……エドマンド、此お方を存じてをるか？

エドマ いゝえ、存じませぬ。

グロー ケントの伯爵どのちや。予の尊敬するお方ぢや、お見知り申しておけ。

エドマ 何分よろしう。

ケント おひ〜お知交になつて、是非御別懇に致すであらう。

エドマ 御知遇に背かぬやう勤めまするのでござりませう。

グロー 彼れは九年間外國へ參つてをりましたが、また直に遣す積りで……

センネット調の喇叭聞ゆる。

王のお渡りぢや。

喇叭につれて、一人寶冠を捧げ持ちて先に立つ、つゞいて
ブリティン國王リヤ、次女の婿コオンチール公爵、長女の婿アルバニ
公爵、長女ゴネリル、次女リガン、三女コオデリヤ及び従臣大勢
出る。

リヤ

グロースタアよ、フランス王とバアガンデーの公爵とを接待しておくりや
れ。

グロー

かしこまりました。

グロースタアとエドマンドと入る。

リヤ

此間に其方達のまだ存せぬ内密の旨意を申聞かさう。……地圖を持て。……
まづ我王國をば三つに分けた。予も高齡と相成つたによつて、すべて面
倒な政治上の用向は悉く若い強健な者共に委ねて、身輕になり、靜かに死
の近づくのを俟うといふ決心ぢや。……我愛子コオンチール。……また子た

るの愛に於ては少しも劣ることのないアルバニ公爵。予は今日只今、化
粧料として副遣すべき女共の所領を公けに致さうと存する、然るは今にし
て永く未來の争根を絶たんがためぢや。フランス王とバアガンデーの公
爵とは末姫コオデリヤの愛に對する競争者となつて、其戀を遂げうために
久しう此宮中に逗留せられた、其返辭もまた今日の筈ぢや。……女どもよ、
今や予は、支配をも、所領をも、國事に關する心勞をも悉く脱ぎ棄て、しま
はうと存するによつて、聞かいてくれ、其方達のうちで誰れが最も深く予
を愛してをるかを。眞に孝行の徳ある者に最大の恩恵を與へようと思ふ。
……長女ゴネリルから申せ。

ゴネリ

父上、わらは、口で申し得らるゝより以上にあなたをば愛しまする、目よ
りも、空間よりも、自由よりも、貴き又は稀なる、ありとある價あるもの
以上に、命よりも以上に、威嚴や健康や美や名譽の添つた生命以上に貴下を

ば愛します。子の曾て献げ、父の曾て受けた限りの愛を以て。……息をも乏しからしめ、語をも不能ならしむる程の愛を以て。恰どそれほどの、ありとあらゆる愛以上にあなたを愛します。

コオデ

(傍白) コオデリヤは何とせうぞ? ……心で愛して黙つておよう。

リヤ

(地圖を指し) 此線より此線まで、鬱蒼たる森林と豊饒なる平野、魚に富める河々と裾廣き牧場とを有する、此境域一圓の領主とそなたをする。これはそなたとアルバニーとの子々孫々にまで永久の財産ぢや。……さて予が最愛の二女リガン、コオンヨールの奥方は何といはるゝなり?

リガン

わたくしも姉上と同じ心でございます、姉上と同様におぼしめして下さいまし。眞實、わたくしが思つてをる通りを姉上がおつしやつたのでございます、只少しおつしやり足りませんばかり。わたくしは、最も大切な感覺の、ありとあらゆる歡樂をも仇敵と斥け、只一へに陛下を愛敬し奉るのを

幸福と思つてをります。

コオデ

(傍白) では此コオデリヤは! ……いや、何にもいふまい、逆も此心は舌でははれるやうな軽いものでないから。

リヤ

これがそなた及びそなたの子孫の世襲の財産ぢや、我美なる王國の此豊かな三分の一は。……廣さに於ても、價格に於ても、其樂しさに於てもゴネリルに遣いたのに少しも劣らん。……さて、末でもあり、小でもあるが、予の秘藏子、フランスの葡萄もバアガンデーの乳も夢中になつて戀しがつてをるコオデリヤよ、姉たちのよりも一段豊かな三分の一を貰ふために、そなたは何様なことをいふぞ? 申せ。

コオデ

何にもいふことはございません。

リヤ

なんにも?

コオデ

はい、なんにも。

リヤ なんにもないところからは何にも生れん。改めて申せ。

コオデ わたくしは、不仕合せなことには、心にある事を口に出すことが出来ません。わたくしは義務相當にあなたを愛します、それより多くもなく、少くもなく。

リヤ どうしたのぢや、コオデリヤ？ いひかたを繕はんと身の爲になるまいぞよ。

コオデ 父上さま、あなたは私を生んで、育て、かはゆがつて下さいましたから、そのお禮に正常な子たる者の義務だけは盡します。命令を守ります、愛しもし、敬ひもします。……何故に姉上がたは夫をお迎へなされましたか、眞實あなたばかりをお愛しなされるなら？ 恐らく私は、もし婚禮すれば、眞實に事へねばならぬ夫の爲に、愛をも心づかひをも勤をも半分は傾けねばなるまいと存じます。父上ばかりを愛さうと思つたら、私

リヤ は決して姉上がたのやうに結婚はいたしません。

コオデ それは本心でいふのかり？

リヤ はい、本心でございます。

コオデ 幼少でありながら、さほどまでに柔情の無い？

リヤ 幼少であつても、申すことは眞實でございます。

リヤ 勝手にせい。なりや其眞實を持參金にしをるがよい。太陽の聖き光をも、ヒケートの神秘をも、夜の暗をも、人間が生死の因たるあらゆる天體の作用をも誓にかけて、予はこゝに、父たる心づかひをも、近親たることをも、血族たることをも抛棄て、今日より永久に汝をば勘當する。残忍野蠻の、おのが食欲を饜かす爲に實の子をも喰ふといふ彼のジ、ヤ人を友達ともして、憐みいたはつたはうがましぢやわい、昨日までは女であつた汝をばいたはり憐むよりは。

ケント あゝもし、我君には……

リヤ 黙れ、ケント！……龍と怒との間に立つな。……最ち彼女をかはやう思うて、彼女が深切な介抱をば末の頼みともしてをつたに。……退れ、目通り叶はん！……天の神々も照覽あれ、あいつめは子では無い、女で無いぞ！……：フランス王を呼べ。……え、起たんか？ バアガンデーを呼べ。

一侍臣 急ぎ奥へ入る。

コオンヨールとアルバニーとは、女等二人の所領と共に第三の分をも分配せい。彼奴は、正直と自稱しをる其高慢を料に結婚しをれ。お前たち兩人に、我權力をも、最上の位をも、王座に附帯するあらゆる名譽實力をも譲り與へる。予は、月々、百人の武士を附人に控へおき、それをお前たちが扶持することにして、一月代りにお前たちの邸で世話になるであらう。予は只王といふ名義、稱號だけを貰うておく、國家の收入、統治の實權等一

切は、婿どの、悉くお前たちのものぢや。其證據として、只今爰で此王冠を分ち遣す。

王冠を二人に渡さうとする。ケント之をとめて王の前にはひざまづく。

ケント

リヤ 王殿下、常に我王と崇め、我父とも愛し、我主君と奉じ、神に祈る毎に我大保護者と……

リヤ

弓は既引絞つたわ、箭先を避けい。

ケント

いゝや、其箭の鋭尖で胸を貫かれてもかまひません。(起上りて)リヤ王が御本心を失はせられた上は、ケントは禮儀を棄てまする。

王劍に手を掛くる。

何をなさる？ 國君が阿諛に屈する時には、忠臣も能う口を開かんと思召すか？ 至尊に愚昧な振舞があれば、直諫は恥を知る者の義務でござる。：

……王權は元の通りお手許に留めおかせられい、そして御再慮あつて、決してかやうなおそろしい軽忽な振舞をなされません。未姫君は決して御不孝ではござらん、若し此判断にして相違いたさば、手前の一命を召されませ。外に反響する音の低いは、内に誠情が充實してゐるので、心の空虚でない證據でござる。

リヤ 黙れ、ケント、命が惜くば。

ケント いや、此命はお身代りの御用にもと今日まで貯へました。お爲故にならば惜みません。

リヤ え、目通り叶はん。退れ！

ケント い、や、退りません。従前通り手前をば目安になされて、是非黑白のお見分をなされませ。

リヤ やあ、アポローも照覽あれ……

ケント やあ、アポローも照覽あれ、御誓言は無要でござる。

リヤ お、おのれ！ 不禮者めが！

王劍を抜きかける。アルベニーとコオンチールとでそれを止める。

コアルバ まあ〜！

ケント 良醫を殺いて悪い病に報酬をおやりなされ。御宣言のお取消をなさらんに於ては、聲が此喉から出る限り、あくまで間違つた御所行ぢやと申しまするぞ。

リヤ 黙れ、不忠者！ 忠義を存するなら、先づよく聽け！ 汝敢て……予はかりそめにも敢てせざるに……君臣の盟約を破壊せんと欲するのみか甚しき傲慢不遜の態度を以て予が宣言の實行を妨げんと致しをつたる事、王たる者の性として、身分として、決して忍ぶ能はざる所ぢや、予が其權を執り

行ふ只今に及んで、其應報を受けい。五日だけは許し遣す、世の不便災厄を避くる準備の爲に、併しながら第六日には必ず此國に脊を向けをらう。若し第七日となつて尙國內にうろつきをらば、見附次第死刑に處する。立去れ！ ジュピターも照覽あれ、此宣告は一たび出で、は復らんぞよ。おさらばでござる。王がかやうな振舞をなされるからは、此國には自由は無、此處に留まるのは追放も同然ぢや。……(ゴオテリヤに對ひ) 神々も貴女をば愛憐んで、お護りなさるゝであらう、思ふこと正しく、其言ふこと更に最も正しい娘御！……(ゴネリルとリガンに對ひ) 孝行らしい口吻から善い結果の生ずるやう、實行によつて大言の始末をなされ。……(皆々に向ひ) おゝ、かたゝ、これでお暇をいただきます。住慣れん國に合せて爲慣れた生活を續けませうわい。

ケント入る。

喇叭の聲盛んに起る。グロースター伯先に立ち、フランス王とバアガンデーの公爵とを案内して出る。従者大勢ついで出る。

グロー フランス王とバアガンデー公とが渡らせられてござります。

リヤ バアガンデーどの、先づ貴下に尋ねます、貴下はそれなる王と末女を争ひめされたが、貴下が、若しそれだけを得る能はざれば此縁邊は止めるとある最低額の化粧料は幾何でござるの？

バアガ 大王殿下、手前は豫てお約束あつた以上を要求致しません、またあれ以下をお遣しではござりますまい。

リヤ バアガンデーどの、彼れめをかはゆう存じてをつた時分にはさうもござつたのぢやが、今は値が下りました。それ、そこに居ります。若しその見すばらしい體内に存する者が、いや、其全體が、吾等の勘氣を蒙つたがため

に、聊かの財産も添ひませんが、それでお氣に適うたら、そこに居りまする、お伴れなされ。

バアガ 何と申してよいやら。

リヤ 種々の缺點を有つた女ぢや、愛を失うて新に憎みを受け、父の誓言で勘當

され、父の呪を持參金とする女ぢやが、お取なさるか、お棄なさるか？

バアガ 失禮ながら、さういふ條件では選ぶことが出来ません。

リヤ ならば、お棄なされ、神かけて、只今申したのが彼れが財産の全部でござる。

……(フランス王に)大王よ、吾等は貴下の御懇情を重んじまするによつて、吾等が憎う思ふ者をお娶りなされいとは申しかねる。ぢやによつて、現在の親すらも子といふことを恥づるやうな女よりも一段立派な者へ愛情を向けなさるがよい。

フラン 奇怪千萬なこととござる、つい先刻までは貴下の御秘藏であり、貴下が御

稱讚の主題でもあり、御老體の藥膏でもあり、最善でもあり、最愛でもあつた姫が、忽ちのうちに八重九重の恩愛を剝去られねばならんほどの大不埒を犯されたとは。定めし、前々御吹聴あつた愛情が健全である限りは、姫の罪は奇怪至極と申すほどの甚しいものでござりませうな、併し姫にさやうなことがあらうとは、奇蹟でもなくば、吾等の理性の能う信じませんこととござる。

コオデ

(王の前にひざまづきて)殿下にお願ひ申しあげまする、もし……妾は心にもないことを口に言ふ滑かな辯舌に拙うござりまする……妾は心に思つたことは、言ふよりも先に行はうと存じますゆゑ……どうぞお願ひ申しまする、妾が御寵愛を失うたのは、決して不品行でも、汚はしい振舞でも、不貞操でも、不名譽の所行でもなく、諛ふ目附や辯舌を有たぬゆゑに御勘氣を受けたのぢやとおつしやつて下さりませ、それらを缺いでゐるために御寵

愛を失うたけれど、自身ではそれが無いのが徳の有るのぢやと信じて、寧ろ喜んでをりまする。

リヤ

親に怒を起さすやうな汝、生れをらなんだがましぢやわい。

コオテリヤ泣伏してゐる。

フラン

只それのみで？ 爲ようと思ふをも兎角いはいでおく語少な持前？

……バアガンデーどの、姫に對する貴下の意見は？ 愛も眞の愛でない

愛のみを主とせいで他の條件をまじふるやうでは。 姫をお迎へなさるゝ

か？ 其身そのまゝが化粧料との事ぢやが。

バアガ

リヤ王殿下、前にお申出しあつたゞけをお添へ下されい、手前即座にコオ

デリヤどのを迎へてバアガンデーの公爵夫人といたしまする。

リヤ

何も遣しません。 誓うた上は決定してござる。

バアガ

(コオテリヤに)お氣の毒ながら、父御をお失ひなされたゆゑに、夫をも失ひめ

された。

コオテリヤ泣伏してゐたる顔をあげて

コオテ

(傍白)バアガンデーどの、御機嫌よろしう！……財産を目的の愛ぢやによつて、妻になる心はない。

フラン

(コオテリヤに)コオテリヤどの、貧うて却つて最も富み、棄てられて却つて最もいみじく、憎れて却つて最もいとをしいコオテリヤどの、こなたとこなたの徳操とを吾等が拾ひまする。 棄てられたものを拾ふに故障はあるまい。

(コオテリヤを抱起す)あゝ、あゝ！ 彼等はこれほどに冷かに取扱ひを

るのに、不思議にも我愛情は烈火のやうに熱し燃ゆる。……殿下、化粧料

もない貴下の令嬢を偶然に拾ひまして、吾等が妻、我國民の妃、我フランス

國の王妃といたしまする。 水くさいバアガンデーの公爵が幾人あらうと、

此價の知れぬ淑女を我手から買取ることは出来まい……コオテリヤどの、

人々に暇乞をなされ、むごい人達ではあれど。此處を失うて貴女は此處よりも更に善い處を得たのぢや。

リヤ

貴下に進ませます。御自分になされ、吾等はそのやうな女は有たん。又と其面を見まいわい。……

コオデリヤ 思はず寄らうとする。王席を蹴つて起つ。

ぢやによつて立去りをらう、父の恩愛もなしに、祝福もなしに。……さあさあ、バアガンデーどの。

喇叭。フランス王、ゴネリル、リガン、コオデリヤだけを殘して皆々入る。

フラン

姉上たちに暇乞をなされ。

コオデ

父上御鍾愛のあなたがたへ、涙に浸る目でコオデリヤがお別れ申します。あなたがたのお氣質はよう知つてゐますけれど、妹の身としては、世間で

謂ふあなたがたの缺點を口にするに忍びません。父上に孝行をなされて下さい。口に出しておつしやつたあなたがお心にお心にお頼み申します。……けれども、お勘氣を受けてゐなければ、もつと善いところへ頼んでゆきたい。……さやうなら、おふたりとも。

リガン

わたしたちへ務めぶりのお指揮には及びません。



ゴネリ 御自分の殿御の機嫌を損ねないやうになさい、運命のお餘り程に思うて阿女さんを拾うてくれた殿御です。父上に柔順を怠つた阿女さんです、自身に欠乏した其不徳相當の欠乏が身に報いますのよ。

コオデ 八重に包んだ虚偽が今に露見する時が來ませう。悪いことは如何掩ひ隠してゐても、遂には恥辱を受けねばなりません。……さやうなら！

フラン さあ、コオデリヤどの。

フランス王 コオデリヤを促して入る。

ゴネリ いもうと、二人の身に密接に關係したことで、いろく話したいことがあります。父上は今夜にも最早いらつしやりさうだよ。

リガン きつとさうです、あなたのとこへ。來月は私どもへ。

ゴネリ 知つての通り、齡のせいでおそろしく氣まぐれにおなりなされたわね。その證據を見たのは一度や二度ぢやない。いつでもコオデリヤは一番の

お氣に入りであつたのに、あの通り、譯の分らん理由で勘當しておしまひなされるんだものを。

リガン 老耄のせいです。それでも御自身には殆ど氣が附いてゐませんの。

ゴネリ 若い健全な頃でさへも一徹短慮な人であつたのが、齡を取りなすつたんだから、永い間性癖となつた弱點にかたゝ加へた老耄で、怒りぼくもなつて、始末におへない我儘をなさると思はねばなりません。

リガン わたしたちとても、彼のケントと同じに、いつどんな氣まぐれな目に逢ふか知れませんよ。

ゴネリ フランス王が出立するので、挨拶や何かで、奥ではまだ手間が取れませう。……どうぞお前さん、わたしと合體してやつて下さい。もし父上があゝいふ氣立で威をお揮ひなさるやうであると、權力を渡して貰つたからとて、有害無益ですよ。

リカン 尚よく御相談いたしませう。

ゴネリ どうにかせにやなりません、今のうちに。

二人入る。

第二場 グロースター伯の居城

エドマンド 一通の書状を持ちて出る。

エドマ

大自然よ、汝は乃公の神さまだ。おれはお前の定めた規則だけを奉ずる積りだ。何の必要があつて馬鹿々々しい習慣なんぞに役せられて、俗間のわづらはしい禮法の爲に相續權を亡する奴があるものか？……兄貴よ、り僅々十二ヶ月か十四ヶ月おくれて生れたといふだけの理由で。何故劣

腹だ？ 何が劣るんだ？……四肢五體に何の缺點も無く、心も高尚、姿や形も本妻腹同様正しく生れついてゐるぢやないか？ 何で彼奴らはおれたちに劣腹なぞといふ烙印を捺しやあがるんだ？ 劣腹？ 劣腹だ？ 何が劣る？……面白くもない、陳腐な、壓果てた床の中で、半分眠ながら抜作種を製造するのに比べりやあ、人目を竊み、好きこのんで製へた子のはうが、種が遙かに豊富でもあり猛烈でもあるべき筈だ……だから、本妻腹のエドガーどの、わたしがお前さんの領地は貰ふよ。お父さんの情愛は本腹も劣腹も區別はない。本妻腹！ 佳言葉だなあ！ はて、本腹さん此手紙が役にたつて、おれの策が成就すりやあ、劣腹のエドマンドが本腹どのを乗越しますよ。長びるぞ、出世するぞ。神さま、どうか劣腹の肩を持つて下さい。

グロースター 出る。

グロー ケントもかうして追放となつてしまつたり？ フランス王は腹を立つて出立せられた？ それから王は今夜からお出まし？ 権力を引渡してしまはるゝ？ あてがひ扶持を受くる身とならるゝ？ それが總て咄嗟の間に定つてしまつた！……エドマンド、どうしたのぢや！ 何事が起つた？

エドマ (わざと慌て、手紙をかきす) へい、あの何も。

グロー なんて其様に一心になつて其手紙をかきすのぢや？

エドマ 何も存じません、變つた事は。

グロー 讀んでゐた手紙は何ぢや？

エドマ 何でも無いのでござります。

グロー 何でも無い？ すれば、何で恐しげに大急ぎで、衣囊の中へ隠したのぢや？ 何でもないことなら隠す必要は無い筈ぢや。見せい。さあ、何でもないものなら眼鏡をかけるにも及ぶまい。

エドマ どうぞ御免なすつて。 あれは兄上からのお手紙でござります。 まだ讀通いてはをりませんけれど、讀んだゞけでは、御覽に入れては具合がわるいと思ひますから。

グロー 見せなさい、その手紙を。

エドマ (半獨語のやうに) 見せなければお氣にさはらうし、見せればお氣にさはらうし……中に書いてありますことは、讀んだゞけでは、ようない事ですから。見せろ、見せろ。

エドマ (手紙を渡しながら) 多分これは……兄上の爲に辯解しておきます……私の根性を試さうためにお書きなすつたのでござりませう。

グロー (讀む)

老人を尊敬する習慣あるが爲に、吾々青年は其最も良き時代を不愉快の裡に空しく經過し、財産あるも之を享樂し得べき時には使用する能

はずして徒らに老境に及ぶなり。予は老人をして専横をほし、
にせしむるは、要するに吾々青年の愚なる奴隷根性に因ること、存じ
候。彼等が吾々を支配するは権力あるが爲にはあらず、支配するこ
とを許しおくが故に候。此事につきては尙語るべき事あれば御入來

あれ。若し父をして予が起すまでは熟睡せしむるやう物するを得ば、其財産の一半は永久に其許の有とし、且つ深く其許を愛すべく候。

兄エドガーより。

ふうむ！ 陰謀ぢやなり。「予が起すまでは熟睡せしむるやう物するを得ば、其財産の一半は永久に其許の有とし」！……わが子のエドガーが！ か



エドマ ういふことを書きをつたか？ こんな奸計をする心や頭を有ちをらうとは！……これは何時手に入つた？ 誰れが持つて來た？
持つて來たのではござりません。巧い具合に私の部屋の窓から投込んであつたのでござります。

グロー 此字は兄のか？

エドマ 善いことが書いてあるのなら、兄上のぢやとも誓ひませうけれど、さうでないから、兄上のではないと思ひたうござります。

グロー いや、兄のぢや。

エドマ 手こそは兄上のでござりますけれど、よもや兄上の心は爰に書いてあるやうではありますまい。

グロー 何か此事に關して兄が探りを入れたことは無かつたか？

エドマ 一度もござりません。が、折々おつしやつたには、男の子が丁年になつて、

父親が老衰してゐる場合には、父は財政其他一切の事を子に任いて、自分は後見されるが當然ぢやと。

グロ― おゝ、おのれ、悪漢めが！ 其持論が此手紙に！ おそろしい悪漢めが！ 不倫な、不孝な、につくい畜生！ 畜生にも劣つた奴！……さあ、彼奴を捜いて来い。 引捕へてくれう。 おそろしい悪漢めが！ 何處にをる彼奴は？

エドマ ようは存じません。 兄上が奸計をなされたといふ一段よい證據がお手に入るまでは、お腹を立たいでいらせられましたなら、大丈夫でござりますけれど、若し誤解して手荒いことをなされましたなら、あなたの御不名譽でもあり、兄上の御孝心を粉碎にしておしまひなさることになりませう。 私は命を賭けて請合ひます、兄上は全くあなたに對する私の情愛を試さう。 ために此手紙をお書きなされたのに相違ござりません、怖しい企などは決

してないのでござります。

グロ― さう思ふかお前は？

エトマ 私は兄上と私とが此事を話してをるところへ、御意次第で、御案内申しませうから、御自身でお聴きなされて、實否をお定めなされませ、さうしてそれは、今夜すぐにも御案内いたしませう。

グロ― かういふ人非人で有り得よう筈がない。……

エドマ 勿論ありません。

グロ― 此通り悉く慈うしてやる父に對して。 あゝ、あゝ！……エドマンド、彼奴をば捜し出して、どうぞ其本心を探つてくれ。 手段は自分の才覺で工夫したがよい。 身分や財産に代へても、確かな證明が得たいわい。

エドマ すぐに兄上を捜しまして、臨機應變に計らうて、結果をお知らせ申しませう。

グロー

此頃うちの日蝕や月蝕は全く不祥事の知らせぢや。理學者どもはあゝのかうのと理窟をばいふが、自然界はやはり彼の結果で種々の災害を受ける。愛は冷却する、友誼は破れる、兄弟は中たがひをする。都會には暴動、地方には騷擾、宮中には謀反人、親子の間の絆は切れる。我家の悪漢の如きが其豫言の中に入る、父に叛く倅ぢや。王は性の自然に背いた振舞をなさるゝ、取りも直さず子に背く父ぢや。あゝ、世は澆季となつた。陰謀や輕薄や不信實や其他さまざまの亂脈が墓に入るまで人の心を搔亂す。……エドマンドよ、惡漢めを搜いて來い。決してそなたの不爲にはならん。ぬかるまいぞ。……氣高い、忠實なケントは追放！ 其罪はといふと、正直一圖といふこと！ 奇怪千萬ぢや。

グロースター入る。

エドマ

大べらばうな話だ、運が悪くなると……それは大抵自業自得であるのに……

……其不仕合せの原因を太陽や月や星の所爲にする、人間は天體の壓迫で據なく惡者にもなり、阿呆にもなるかのやうに思つて。惡黨となるも、盜賊となるも、謀反人となるも、同じく天體の争ひがたい感化、大酒飲も虚言家も間男もみんな止むを得ない星の勢力、其他人間が犯す惡といふ惡は、何れも何かしら神のさせること、見做す。邪淫家の好い遁辭だ、その淫亂根性を星の所爲にするのは！ 乃公の親父は大龍星の尾の下で阿母と慰懃して、さうして乃公が大熊星の下とやらで生れたげな。それが爲に乃公は氣が荒くて色を好む。へん、よしんば蒼空で第一等の潔白な星が、下借腹の眞最中に、どう燦ついてゐようとも、乃公は正に此通りにお育ち遊ばしたに相違ないわい。や、エドガーが……

エドガー出る。

あやうど好いところへ、古い劇の見あはしいのやうにやつて來た。おれ

のきつかけは空愁歎の體とござい、ベドラムのトムよろしくといふ溜息を吐いて……(獨白のやうに)お、此間中の日蝕や月蝕、あれが皆かういふ中たがひの前兆であつたか！……ファア、ソーラ、ミー。どうしたのちや、弟エドマンド！何をさう一心に考へ込んでゐるのぢや？

エドマ 兄さん、わたしは此間讀んだ豫言の書のことを考へてゐるのです、日蝕や月蝕の後には如何いふことが起るかといふ。

エドガ お前はさういふことを勉強してゐるのかい？
豫言に書いてあることが、ほんたうに陸續起つてゐます、不幸にも。例へば子と親との中たがひだの、死亡や、飢饉や、久しい友誼の破壊だの、國內の分裂、王や貴族に對する惡口雜言、故無き嫌疑、信友の追放、軍隊内の騷擾、夫婦間の破裂、其他いろいろの事が起つてゐます。

エドマ いつからお前は天文學者になつたんだい？
あ、もし、近く何時父上にお逢ひなされましたか？
昨晚。

エドマ お話をなすつたか？
うん、二時間ほど。
中よくお別れなされましたか？
えませなんだか？

エドガ い、や、ちつとも。
何かで御機嫌を損ねなさりやしませんか？
もし、願ひですから、お怒りの火の手が衰へるまで暫くの間、父上の目にかゝらないやうにしてゐて下さいまし。ひどいお腹立で、今のところ、あなたの身に害でも加へなければお心が和ささうもありません。

エドマ 口吻なり顔色なりにお立腹の様子は見

エドガ

エドマ

エドガ

エドマ

エドガ 悪い奴が何か讒言をしをつたのぢや。

エドマ 私もさうかと思ひます。 願ひですから、父上のお立腹の薄らぐまで、じつと辛抱してゐて下さい、さうして私の宿まで来て下さい、そこから父上のおつしやることの聞かれる處まで御案内しませう。 どうぞ、さあ。これが宿の鍵です。 外出なさるなら武器を忘れちやいけません。

エドガ 武器を？

エドマ 兄さん、わるいことはいひません。 武器を身につけて外出なさい。 正直、あなたに害を加へようとしてゐる者がありますから。 現に見たこと、聞いたことをお話したのですけれど、逆も其怖しさの微かな影ほどもお傳へ申すことが出来ません。 さ、どうぞ、早うこゝを。 ちきよに知らせてくれるか？



エドマ 大丈夫です。

エドガ 入る。

乗せられ易い親父と正直一圖の兄貴、悪い事をかりにも能うしない性質だから、人がしようとも思はない、其馬鹿正直が此方の附目だ。 仕事は附いた。 血統で領分持になれなければ智慧でなるわ。 何でもかでも結構だ、好い工合に物になりやあ。

エドマ 入る。

第三場 アルバニーの公爵館

ゴネリルと其家扶オスワルドと出る。

ゴネリ では、阿呆を叱つたのが不埒ぢやというて、父上が吾邸の侍士を御打擲なすつたの？

オスワ はい、さやうでございます。

ゴネリ 毎日毎晩わたしを困らせてばかりいらつしやる。始終何かしら怖い悪

いことをなすつて、邸中が引繰返るやうな騒ぎ。もう忍耐しますまい。

お附の武士どもは亂暴になるし、御自身はまた些細な事を原に口ぎたなく

おつしやるし。獵からお歸りになつてもわたしや御挨拶しますまい。

病氣だと言ひ。お前も今までとは違ひ、すつと無奉公にしむけたがよ

い。其責任はわたしが負ひますから。

奥にて角笛の聲聞ゆる。

オスワ お歸館でございます。喇叭が聞えます。

ゴネリ 面倒がつて故と打擲つておくといふ様子をしておいで、お前も他の者も。

これは如何したことかと彼此おつしやるやうにしたいの。お氣に染まなければ、妹の處へいらつしやるがよい、彼女の心も、壓制させておかないといふ點だけはわたしと一致してゐます。役にも立たん老爺！一たん讓つておきながら其權力を、いつまでも振廻さうとしてゐるんだもの！ほんたうに耄ると赤兒に復るのだから、機嫌ばかり取つてゐると、増長してしやうがない、時々叱りつけなくちや不可ません。今言ひつけたことを忘れまいよ。

オスワ かしこまりました。

ゴネリ お附の武士共に對しても、お前がた一同、冷淡な顔をしてゐるがよい。如何なことが出来しようとかまひません。同僚へさう指圖なさい。わたしはそれを機にしようと思ひます、是非、言うてのけるために。妹へ直に手紙をやつて、わたしと同じ手段を取らせませう。食事の準備をしておき。

二人入る。

第四場 同じ處の廣間

下人に變装したるケント出る。

ケント 持前でない聲色を使つて、顔や形同様に、言語遣ひまでも變へてしまふことが出来れば、かう變装をした忠義の目的を十分遂げることも出来るのぢやが。……こりや、追放されたケントよ、構はれてゐる其國で、奉公が出来れば、汝の大事な御主人が嘸調法なさるであらう。

奥にて角聲、リヤ先に大勢の武士、侍者ついて出る。

リヤ

ちよつとも待てん。すぐに食事の準備をせいといへ。

侍者一人入る。

ケント どうしたのぢや！ 汝は何ぢや？

ケント

へい、男で。

リヤ

職業は何ぢや？ 何を賣らうといふのぢや？

ケント

賣る氣はございませぬ、有りのまゝの男で。信用して下さる方には實貞

に御奉公いたします。正直者は大好き、聰明で而も口數の少ない人とは

善う交際うて、天道さまを怖いと思ひ、せうことがなければ喧嘩もします

る、魚は決して食ひませぬ。

リヤ

何ぢや汝は？

ケント

めつぼふ正直な、王さまと同じに貧乏な野郎でございます。

リヤ

王が王として貧乏なやうに、汝が臣下として貧乏なれば、成程大分貧乏で

もあらう。何を要めるのぢや？

ケント 御奉公を。

リヤ だれに奉公がしたい？

ケント あなたに。

リヤ 汝は予を存じてをるか？

ケント いゝえ、存じません。併しあなたの お顔附には旦那と呼んで見たいとこ

がござります。

リヤ 何ちやそれは？

ケント お威厳です。

リヤ どんな勤務が出来る？

ケント 先づ正しい秘密ならば、守りまする、馬に騎りまする、走りまする、七面倒

な口上なら、述べるうちに滅茶にしますが、只の口上なら、無潤色に傳へま

する。並の人間のすることなら爲てのけます。第一の長所は勤勉なこと

でござります。

リヤ 幾歳になる？

ケント 歌が巧いからつて女に惚れるほど若くもござりませんが、如何なことがあ

つたつて女に現を抜かすほど老けてもをりません。もう四十八年だけ脊

負ひ込みました。

リヤ 従いて来い、使うて與すでもあらう。食事後にも予の氣に入つてをるや

うであれば、傍においてやる。……(奥に向ひて)食事ぢや、やい、食事ぢや！……

…小奴は何處にをる？ 阿呆めは？……其方參つて阿呆めを爰へ呼ん

で来い……

侍者一人入る。

オスワルド、王の前を、わざと知らぬ振にて鼻唄をうたびな

がら横切りて去らんとする。

オスワ
こりや、其方、こりや、我女は何處にをる？
え、失禮でございますが……

オスワルド入る。

リヤ
何と言うた、彼奴？ あの馬鹿者を呼戻せ。

侍者一人入る。

やあ、阿呆めは何處にをる？ 世界中が熟睡つてしまつたか？

侍者一人戻り来る。

どうぢや？ あの犬めは何處にをる？

侍者
姫君は御不例の由に申します。

リヤ
なんで彼奴めは戻らなんだか、予が呼んだ時に？

侍者
へい、露骨に申しをります、厭ぢやつたと。

リヤ
厭ぢやつた！

侍者
御前、仔細は存じませんが、私考へまするに、殿下に對するお待遇が従前

のやうに御懇でないやうに存せられます。總體に冷淡に相成りました

のが、公爵御夫婦にも御家來衆の舉動にも、見えてをります。

リヤ
や！ 何と申す？

侍者
御前、平に御高免を願ひまする、萬一存じ違へでござりましたなら。君

辱められたまふと存じながら、黙してはをられませんゆゑに申しあげまし

たので。

リヤ
予が心附いてゐたことを想ひ起させたに過ぎんわい。予も近來微かに其

冷遇に心附いてをつた。なれども予はそれを以て彼等に不深切な下心あ

るが爲とは思はんで、寧ろ予の穿鑿過ぎた邪推であらうとばかり思つてを

つた。なほよう檢べて見よう。それはさうと阿呆めは何處にをる？

此二日ばかりは彼奴の顔を見なんだ。

侍者 末姫君さまがフランスへ御出立になりました。以来、阿呆は滅切元氣がなう
なりました。

リヤ もう其事はいふな、よう知つてをるわい。……其方參つて我女に申せ、予が
話したい事があると。……

侍者 一人入る。又他の一人に對ひて

其方は阿呆めを呼んで來い。……

此時 オスワルド又出る。

お、其方、いや、お前さん、こゝへ來て貰ひませう。……予は誰れでござる
の？

オスワ 御奥様のお父様で。

リヤ 御奥様のお父様？

御殿様の奴隷めが！ おのれ、取るにも足らん犬め！

奴隷！ 畜生！

オスワ さやうな者ぢやございません、憚りながら。

リヤ おのれ予を睨み返しをつたな？

王 オスワルドを打つ。 オスワルド其手をさへへる。

オスワ ぶたれちや居りませんぞ。

ケント 躍り入りて

ケント 顛覆されもせんだらうな、此蹴鞠野郎め！

だしぬけにオスワルドを蹴飛ばす。

リヤ かたじけない。忠義を盡しをる。かはゆがつてやるぞ。

ケント さあ、起きて去つちまへ！ 上下の差別を教へてやらあ。去つちまへ、去

つちまへ！ 唐變木の尺がもう一度取りたけりやあ、愚圖ついてゐる。

去つたはうがよからうせ！ さあ〜。聰明か？……

オスワルドを奥へ突遣り

さう。

オスワルド 入る。

リヤ さて、忠義な奴、かたじけない。汝が給料の手附ちや。

王ケントに貨幣を與ふ。

阿呆出る。

阿呆 おれも其奴を備つてやらあ。……さ、おれの鶏冠を與れう。

かぶつてゐる帽子を脱ぎてケントにさしつける。

リヤ どうぢや、かはゆい奴！ どうした？

阿呆 (ケントに) おい〜お前、此雞冠帽をかぶつたはうがい、せ。

チント 阿呆さん、どういふ理由で？

阿呆 どういふ理由？ 人氣の落ちた人の肩なんか持つからよ。いゝえさ、風

向次第に白い齒を見せるとが出来んやうぢやあ、直に風を引くよ。そら、

此雞冠帽を取んなよ。はあて、此人は女兒を二人逐出してしまつて、三番

目の女兒に心にも無い祝福を與れたんだ。此是人に附着いてると、雞冠

帽をかぶらんけりやならん。……(リヤに) どうだい、小父たん？ おら雞冠

帽が二つと女兒が二人欲しいや！

何故ぢや？

阿呆 財産は悉皆女兒に與れても、おれの帽子だけは残いとかあ。それはおれ

のだ。他のを女兒さんにお貰ひ。

リヤ 氣を附ける。答ぢやぞよ。

阿呆 あゝ、眞實は犬と同じだ、小舎の中へ逐込まれなくぢやならん、牝犬御前

さまが、爐の傍で臭いにはひをお發しなざる時分に、答でびしやり〜打

たれてゐなくぢやならん。
(煩悶の思入) おゝ、胸に徹へるわい！

阿呆 おい、お前に文句を教へてやらう。

リヤ うん。

阿呆 聽いてゐな、小父たん。

(節をつけて) 見せびらかすより多くを貯へ、

知つてるよりかも少く言うて、

有つてるよりかも少く貸して、

歩くよりかも餘計に騎つて、

信ずるよりかも餘計に學び、

見込んだよりかも少く賭けて、

酒と女を封じ込め、

家内にはづかり居るならば、

利得は觀血、二つの十で

二十以上が儲かるく。

ケント こりやたはいもない、何にもならんわ。

阿呆 何にもならん？ ぢやあ只で傭つた代言人の陳述といふ格だ。 何にも與

れないんだもの。……何にもならんものは何かにならんかい、小父たん？

リヤ はて、ならんう。 無からは何物も生せん道理ぢや。

阿呆 (ケントに) 頼むから、お前あの人にさういつとくれよ、あの人の地代が幾何

リヤ になつちまつたかといふことを。 阿呆のいふことは眞實にせんから。

阿呆 阿呆の癖に苦口をきくをる！

リヤ おい、お前知つてるかい、苦い阿呆と甘い阿呆の區別を？

阿呆 知らん。 教へてくれ。

リヤ (節をつけて) 田地を與れいとお前に教へた其殿さんを

阿呆 おいらの傍へ伴れておじや。

お前が假に其人ぢや。

甘い阿呆と苦いのと

たちまち爰へ出て來ます。

一人は此處に斑の衣、

一人は其處にをりまする。

歌ひ了ると同時にリヤに指す。

リヤ

やい、おのしは子を阿呆と呼んだな？

阿呆

でもお前は、他の名は悉皆他に與つちまつたんだもの、有つて生れたのは悉皆。

ケント

こりや全然の阿呆ぢやござりませんわい。

阿呆

その通り。殿様達や偉い人達がおいら一人に阿呆を任いといてくれないや。おれが專賣權を有つてゐたつて、衆人が株を分けてくれると言はあ。

リヤ

奥様たちも同じくだ、阿呆をおれ一手で捌かせてくれないや、引奪つてゆかあ。小父たん、鶏卵を一つおくんな、すると冠を二個やらあ。どんな冠を？

阿呆

はて、雞卵を中央で切つて蛋黄を食つちまふと、そら冠が二個出來らあ。

お前は、冠を二つに割つて、二個ながら與てつちまつてさ、泥田の中を驢馬を脊負してはつゝさあるいてゐたらう。金の冠を與れつちまつた時分にや、其きんか頭の中にや根つから智慧がなかつたんだね。おい、おれの言ふことを阿呆らしいと眞先に氣の附いた奴は、ぶんなぐつてくれい。

(節をつけて)今歳や阿呆の外れ年だよ、

聰明な手合が阿呆になつて、

智慧の使ひやうも御存じない程、

手ぶりもそぶりも馬鹿らしい。

リヤ

やい、おのしは何時からさう澤山に唄を歌ふやうになつた？

阿呆

小父たん、おれはお前が女兒つ子らを阿母さんにしたんで、それで唄が好きになつちまつた。何故なら、お前は躰棒を女兒たちに渡いて、お袴を脱

いちまつたらう、其時によ……

(笛をつけて)其時彼等は嬉し泣、

おれは悲しうて唄うたうた。

こんな王さまが阿呆を敵手に

かないく、をさつしやるかと思つて。

頼むから、小父たん、教師を備つとくれよ、虚言を吐くことを教へる教師を。

おれは虚言を吐くことが習ひたい。

虚言を吐くと、答ぢやぞよ。

驚いたなあ、お前とあの女兒たちとは何て親類だらう！ 彼の人たちは眞

リヤ

阿呆

實の事を言ふからつて撲るし、お前は虚言を吐くと撲ると言ふし、どうか

すると黙つてるからつて撲られる。おれはもう阿呆を止めつちまひたい。

でも、小父たん、おれお前になるのは厭だ。お前は智慧の兩端を削つちま

つて、中央を空洞にしつちまつた。……あそこへ削り片の一片が來た。

ゴネリルわざと不興氣にむづかしい顔をして出る。

リヤ

如何したのぢや、我女？ 何故額に八の字をこしらへてをるのぢや？ 近

頃は兎角むづかしい顔ばかりしてゐやるやうに思ふ。

阿呆

女兒がむづかしい顔をしてゐようとも關はなかつた時分は、可愛い人だつ

たがなあ、今ちや數字なしの零だよ。乃公のはうがました。おれは阿呆

ゴネリル阿呆を睨みつける。

へい、黙ります。何にもおつしやらいでも解ります、お顔で。む

ぐく、むぐく。

(節をつけて)硬麵麩も軟麵麩も有たないからは、

なんばあぢきなうても

食はずにやをられぬ。

(リヤを指さして)あれは空になつた豆爽だ。

ゴネリ

あなた、無禮の許いてある此阿呆ばかりぢやありません、他の、無作法千萬な、お附の侍士衆が、始終のやうに罵りあふ、口論をする、それはく、逆も忍耐の出来ませんやうな甚しい亂暴を働きます。あなた、豫て此事は篤とお知らせ申した上で、きつと取締るやうにしたいと存じてをりましたが、あなたがつい近頃おつしやつたことやなすつた事から考へますと、どうやら貴下が御承知の上で、後見をして、教唆していらつしやるのぢやあないかと心配になつて参りました。萬一にもさういふやうでありますと、

阿呆

非難をまぬがれない御過失だらうと存じます、又取締らずにおく譯にはまゐりません、で、彌々家國の爲に取締を致す場合になりますと、自然お機嫌を損ねるやうなことも立到りませうが、必要上止むを得ませんことゆゑ、それは子たるもの、耻辱ではなく、却つて賢明な處置ぢやと人も稱しませうかと存じます。

そりや其筈だよ、小父たん……

(節をつけて)垣根雀が閑子鳥をば

長う育てた其返禮に、

おのが首つ玉喰ひ切られてしまつた。

そこで燭がふつと消えて、あとは眞つ暗の昏暗。

リヤ

お前さんは予の女兒か?

ゴネリ

もし、あなた……あなたは御賢明でいらつしやるんですから、其御賢明を

利用あそばして、近來折々お見受申すやうな、御本性に似合はしうないお振舞は、どうかお止め遊ばすやうに致したうございます。

阿呆 驢馬だつて知つてらあ、車が何時馬を牽くかといふことは。おうい、ジャックや、おらおのしにおつ惚れたよ。

リヤ

こゝにをる者の中で、だれか予を知つてをるか？ これはリヤではない。斯う歩いてをるのはリヤか？ 斯う言うてをるのがリヤか？ 彼れの目は何處にある？ 智力が弱り、分別が昏睡したのぢや？……や！ 現か？

リヤ いや、さうでないわ。予は誰れぢや、だれか知らいてくれんか？

阿呆

リヤの影法師だい。

リヤ

それが知りたいわい、何故なら、君主たる此等の目標や知識や理性で判断すれば、あるまじき事ぢやが、予は曾て女兒を有つてゐたやうにも思はるゝからぢやわい。

阿呆

それをば孝行なお父さんにしようとしてゐらあ。

リヤ

貴婦人さん、お前さんのお名は？

ゴネリ

さういふ故意とらしい怪訝貌が、あなたが近來頻つて遊ばす皮肉な悪戯と同じ脈なのでございます。わたくしどもの趣意の在る所をよう會得して

いただきませう。あなたは御高齡でいらせられますから、御賢明でなう

てはならん筈です。あなたは此處に百人の武士と侍士とをお伴れなされ

てゞございます、不秩序な、放逸な、無作法千萬な人達、わたくし共の邸内

があの人達の悪風に染つて、まるで亂暴狼藉な旅館も同じこと、酒と色と

の爲に此莊嚴な館が料理屋か女郎屋のやうになります。恥辱を存じま

す以上は、直様矯治せねばなりません。さういふ次第でありますから、主

人方の請願を……もし其請願をお聴きなさらなければ、請願いたさんで

然取上げることにもなりますから……すなほにお聴きなさいまして、少々

お附をお滅しになるがよろしからうと存じます。さうして残ります者は、何れも御老年の貴下に相當した、おのが身分柄をも貴下の境遇をも心得てをるものばかりに致したうございます。

リヤ お、おのれ〜！ 予が乗馬に鞍を置け！ 家來共を呼集めい！……道知らずの妾腹めが！ おのれが厄介にはならんわい。 おれにはまだ一人女兒があるわい。

ゴネリ 貴下は邸の者を打擲なさる、あの大勢の亂暴者は目上の者を家來同様に扱はうとする……

アルバニー出る。

リヤ あ〜、後悔先に立たずちや……（アルバニーに）お、こなた御座つたか？ これはこなたの意志でござるか？ 返答が聴きたい。……乗馬の支度をせい。……あ、汝、背恩といふ石の心の大悪魔、汝が實の子の心に宿つた時

アルバ は、彼の海の妖怪よりも遙かに怖しう見ゆるわい！
まあ〜、お忍耐へ下され。

王ゴネリルを睨みて

リヤ につくき鷲め！ 虚言を吐け。 予の家來は、何れも選抜の者共ばかりで、臣下たる者の本分をよう心得、最も油断なく武士の面目を支持する徒輩ぢや。……お、小さい〜過失が、どうしてコオデリヤの場合には醜惡に見えたぞい！ 拷問機械か何ぞのやうに、其小さい過失めが予が本具の性情を正當の位置から捻ぢ曲げ、予の心から悉く慈愛を拔去り、苦い酷い心ばかりを附加へをつた。 お、リヤ、リヤ、リヤ！

自ら其顔を撲ちて

此門を撲て、馬鹿な根性を誘き入れて、大切な分別を逸しをつた此門を！……（奥に向ひて）さあ〜、家來ども！

アルバ

(王の傍へ進みて)手前は全く存せんことをごさる、どうして御立腹になつたことやら、それすらも心得ません。

リヤ さやうでもござらう。

俄に跪きて天を仰ぎ

聽けよ、造化の御神、聽こしめせ！ 若し此れなる女めをして子を産まし

めたまはん御神慮にさふらは、其御意を止めさせられて、此奴が胎内に

は石婦の性を植ゑ附け、生殖の機關を枯渴せしめ、此奴が墮落せる肉體よ

りは、ゆめく、母親の名譽となるべき嬰兒を生せしめたまふ勿れ！ 是非

とも子を産まねばならぬならば、憎しみよりこそ子種を作らしめたまへ、

其子生ひたつては邪ま非道に振舞ひ、母親を苦め惱しますやう！ それが

爲にまだ若き我女めが額には醜き皺を印し、落す涙には其頬に溝を穿たし

めたまへ、母親の心づかひをも深切をも悉く嘲弄に歸せしめたまへ、恩を

知らぬ子を有つ親の苦みは蝮蛇の牙に咬まるゝにもますことを此奴めに
思ひ知らす爲に！……あちへ、あちへ！

王入る。

アルバ

實に、これは如何したのぢや？

ゴネリ

氣を揉んでお尋問ねなさるには及びません、老耄の所爲ですから、氣任せ
にしておいたがようござります。

リヤ又出る。

リヤ

え？ 予の附の者五十人を只一擧に？ まだ二週間にしかならんのに？

アルバ

どうなされたのでござります？

リヤ

その理由をいはう。……

いひかけて王泣く。

(ゴネリルに)おのれく！ おのれのやうな奴めが男子たる子をば、此様に

泣かする力を有ちをるかと思ふと、恥づかしいわい、おのれの所爲で、此熱い涙が、耐へようと思つても耐へきれなくなるかと思ふと、恥づかしいわい。 あらゆる悪い病に罹りをれ、おのれ！ 父の呪咀に貫かれて、目といはず、鼻といはず、おのれの感覺の有る限り、療治の叶はんやうな重傷をば負へやい！ え、馬鹿眼め、二度と如是ことでは泣きをると、えぐり取つて放棄り出し、無益に流しをる水と一しよに粘土をこねる役に立てるぞ。

や！ それほどまでに？ よろしい。 予はまだ外に女兒があるわい、彼女はきつと深切に慰めてくれる、汝の此振舞を聞いたなら、爪で以て其狼面を引剥いでくれるに相違ない。 今に見ろ、永久に予が打棄つたとばかり思つてをる其格式を取つて見せるわ。 おのれ、今に見をれ。

リヤ入る。 ケント其他侍者ら従いて入る。

ゴネリ

あれですもの、あなた。

アルバ

ゴネリルどの、わたしは深くあなたを愛してはゐるけれども、さうあなたにばかり最良して……

ゴネリ

まあさ、あなた。……(奥にむかひて)これよ、オスワルド、これよ！……(阿呆に對ひて)其方は阿呆といふよりも悪漢ぢや、主人に従いてゆけ。

阿呆

リヤの小父たん、リヤの小父たん、待つとくれよ。 阿呆を伴れてつとくれよ。



(節をつけて)狐を人が捕つたなり……
あんな狐を……
縊殺すのが定なれど、

おれの帽子ぢや繩さへ買へぬ、
それで阿呆は尾いて行く

阿呆入る。

ゴネリ

あの人は好い庭訓を得たのです！ 武士を百人も！ 事があれば直様役に立つやうに、武士を百人もお附にしておくといふのは、ほんに用心のよい、聡明な仕方です。はい、聡明な仕方ですよ、たはいもない邪推や空想や噂や苦情の起るたびに、氣に入らんことのあるたびに、あれらを老耄の後押に使はせて、わたしどもに對する生殺與奪の權を握らせておくといふのは……(奥にむかひて)オスワルドは居ませんか？

アルバ

それはちつと案じ過しでせう。

ゴネリ

信じ過るよりは安全です。害を受けやしないかと思つて、心配ばかりしてゐるよりは、心配になる害を取除いたほうがよいと思ひます。父の肚は解つてゐます。父の言はれたことは書面で妹へ知らせました。若しわたしの忠告に關らず彼女が父と其百人のお附とを歓迎するやうなら……

オスワルド 出る。

オスワ

どうしました、オスワルド！ え、妹への書面は認めましたか？ 認めましてござります。

ゴネリ

侶廻りを伴れて、早馬に乗つて、よく妹に、わたしの心配してゐる廉々をね、一層明確にするためにお前さんの意見をも加へて、よく言ひ傳へて下さい。早う往つて、早う戻つて来て下さい。

オスワルド 入る。

(アルバニーに) いゝえ、あなた、あなたの其甘つたるい優しいなされかたを必しも悪いとは申しませんが、併し失禮ながら、兎角それが爲に弊が生じますから、世間では褒めるよりも寧ろ分別の足らん方のやうに申してゐます。

アルバ

貴女の先見がどの位當つてゐるか、わたしには豫言が出来ない。良うしよようと力めて却つて悪くすることがあります。

ゴネリ　　いゝえ、そんならば……
アルバ　　よろしい。成行を見ませう。

二人入る。

第五場 同じ處の前庭

リヤ、ケント、阿呆出る。

リヤ　　其方は此書面を持つて、予に先だち、グロースターまで參れ。此書中のことを問うたならば答へいぢやが、其餘は其方が存じてをる何等の事をも女兒には知らすまい。勉強して急いで參らんと、予のはうが先へ往くぞ。
ケント　御書面をお渡し申しますまでは、休むことぢやござりません。

ケント入る。

阿呆　　もしか人間の腦髓が踵のところにあつたら、輝が裂れやせんかい？

リヤ　　裂れるかも知れんよ。

阿呆　　ぢやあ、御安心なさいました、お前だけは緩靴を穿く必要が無いから。

リヤ　　はゝゝゝゝ！

阿呆　　今に見な、お前のもう一人の女兒は、きつと親身らしくしてくれるよ。何故なら、彼女と彼女とは橙々が九年母に似てるやうに似てるけれど、併しおれにや解つてゐることは解つてらあ。

リヤ　　如何いふことが解つとるのぢや？

阿呆　　彼女と彼女とは同じ味だよ、橙々が橙々に似てるやうに。お前知るまい、

リヤ　　何故人の鼻は顔の中央にあるか？

リヤ　　知らんろう。

阿呆　　はつて、鼻の兩側を善う見張つて、鼻で嗅ぎ出せないことは、目で以て見附

ける爲だ。

リヤ (煩悶の思入) 濟まんことをしたわい彼女には……

阿呆 蟻は如何して貝を造るか、知つてるかいお前?

リヤ うんにや、知らん。

阿呆 おれも知らん。併し何故蝸牛が家を有つてるかは知つてらあ。

リヤ 何故らや?

阿呆 はつて、己が頭をしまつとく爲だ。女兒どもに與つちまつて角の容場を

なくするためぢやないや。

リヤ (煩悶して) 親の情を棄て、くれう。これほどにしてやつた父をば!……馬

の支度はどうした?

阿呆 驢馬が何疋も其支度にいつてるよ。七つ星の数は、七つしか無いといふ

其理由が面白いや。

リヤ 八つとは無いからであらうが?

阿呆 その通り。お前は立派に阿呆になれらあ。

リヤ (又煩悶して) 是非とも取返して! おそろしい恩知らずめ!

阿呆 小父たん、お前がおれの阿呆だつたら、おら撲るよ、餘り早く齡を取たから、

リヤ どうして?

阿呆 聰明にもならんうちに齡を取るやつがあるもんかい!

リヤ (又煩悶して) お、天よ、氣ちがひにならせて下さるな、氣ちがひに! 正氣

にしておいて下され。氣ちがひにはなりたくない、氣ちがひには!

一 紳士出る。

リヤ どうぢや! 馬の支度は出来たか?

紳 出来ましてござります。

リヤ さあ、來い。

阿呆

(観衆に對ひて)今は娘で、おれの引込むのを見て笑つてゐる女子も、さうくは處女ぢやゐないで、物がちよんぎられてしまはぬ以上は。

皆入る。

*

*

*

*

*

*

第二幕

第一場 グロースター伯の居城

エドマンドと廷臣キユランと左右より出て逢ふ。

エドマ

キユランどの、御機嫌よろしう。

キユラ

こなたにも。只今御父上にお目にかゝつて、今夜コオンヲールさまと奥方リガンさまとがお成りなさるゝことをお知らせ申して参りました。

エドマ

それはまた如何して?

キユラ

いや、手前も存じません。世上の噂話はお聞きなされたでござらう。耳語

を。まだほんの窃々と噂しあうてゐるばかりではござるが。

エドマ いや、わたくしは。どのやうな事でござりますか？

キユラ 軍が始まるといふやうな噂をお聞きなさらなかつたかな、コオンフォールさまとアルバニーさまとの間に？

エドマ いや、ねつから。

キユラ では今にお聞きなさるでござらう。ごきげんよう。

キユラン入る。

エドマ 今夜こゝへ公爵が来る？ そいつはうまいや！ いや〜うまいや！

そいつも必ず此方の仕事の一材料になるに相違ない。さて親父は、兄貴を捕へるために捕手の者を伏せた。ところで、おれはまた是非やつてのけんければならん煩瑣い一仕事がある。どうか手取早く、運よく参りますやう！

家の前に歩みよりて

兄さん、一寸。降りていらつしやい！ 兄さんてば！

エドガー出る。

お父さんが見張つてゐます！ さ、兄さん、早くお逃げなさい！ あなたが此處にゐるといふことが知れたんです！ 幸ひ夜だから都合がよい。：若しや貴下はコオンフォール公のことを何か悪く言やあしなかつたんですか？ こゝへ、今来ますよ、急に此夜中に、リガンどのも一しよに。彼黨派の肩を持つて、もしかアルバニー公のことか何か言やあしなかつたんですか、考へて御覽なさい。

エドガ 決して一言も言はない。

エドマ お父さんが来たやうです。御免なさいよ。謀計で、貴下と切合ふ真似をしなければなりません。お抜きなさい。一生懸命になつて防禦する真似

をなさい。……(大聲にて) 降参してお父さんの前へお出なさい！……やあやあ、炬火をく！……(小聲にて) 兄さん、早くお逃げなさい！……(大聲にて) 炬火々々！……

エドガー入る。

(小聲にて) さやうなら。……幾らか血が出てゐたはうが手強く戦つたやうに見えるだらう。(袖をまくりあげて自ら腕に創を附けながら) 痴話が蒿じると、酔漢に、これ以上の事をする奴がある。……(大聲にて) 父上、父上！ まで、まで！……だれか来てくれい、だれか！

グロースター出る。つゞいて 火を持つたる僕数人。

グロ― エドマンドか、奴めは何處ぢや？

エドマ つい今こゝに突立つてゐたんです、昏暗の中に、抜劍を持つて、さうして月に對つて、願はくば我爲に利生をとか何とか怖しい呪文の語を唱へてゐた

んです。

グロ― いやさ、奴は何處にゐる？

エドマ 父上、こんなに血が出ます！

グロ― これ、エドマンド、何處にゐる、奴は？

エドマ こつちへ逃げたんです、到底出來ないと悟つたもんですから……

グロ― それ、おつかけろ！ 蹤を追へ、蹤を……

僕共入る。

到底どうしたと？

エドマ 到底わたしに貴下を殺させることは出來ないと悟りなすつたもんですから、わたしが親殺しの大罪を犯いた者は、神さまが雷を落してお罰しなされる、父に對する子の義務は重ね、重大なものであると言ひまして、つまり、如何しても私が兄さんの非道な企に合體しないのを見なすつたもん

ですから、凄じい勢ひで以て、私の油断してゐる處へ突いてかゝり、二の腕へ手傷を負はせなすつた。併し私が奮然として正義の爲に大膽に戦はうとしたのを見て、それでか、又は大きな聲をしたので、怖れてだか、遽かに逃げてしまひなすつた。

存分遠く逃げて見ろ。此國にをる限りは、引捕らへずにおかうか。見附け次第打果いてくれる。おれの爲には大事の御主君たる公爵どのが、今夜こゝへ成らせらるゝ、其御威勢を借りて觸を出さう、あの非道な卑怯者を搜し出して刑場へ伴來る者には謝儀を與らす、かくまふ者は死刑に處する。

エドマ

私がいろ／＼と諫言をして、悪心を止めさせようとしましても、兄さんは悪口雑言を吐いて、改心なさりさうにも見えませんから、私が、それでは告發すると言ひますと、兄さんは「こゝな無財産の妾腹め！ おれが汝を陥

グロ

れようと思へば、どれほど汝に徳があらうと、信用があらうと、世間が信ずると思ふか？ いや、おれが打消さうと思や斯ういふ鹽梅に言ひぬけてしまふ。さうとも、假令汝がおれの自筆を提出したからつて、おれはそれを悉く汝の誘惑、思ひ附、わるだくみに由ることにしてしまふ。おれが死ねば汝に取つては夥しい利益になるから、汝がそれを望むだらうと世間が想像してゐないと思つたら、世間を大馬鹿にした話だと、さういふんです。おゝ、奇怪千萬な、怖しい悪漢ぢや！ あの手紙を覚えが無いといふか？ 彼奴は決しておれの子では無いわい。

タケットといふ喇叭の進行曲聞ゆる。

あれは公爵の喇叭ぢや！ 何故にござらつしやつたのか知らん。……あらゆる港を閉ぢさせてしまはうから、彼奴め逃れつこは無い。是非公爵にお許可を受けう。且又彼奴の肖像畫を遠近に送つて、全國の者に注意を

させう。お前は兄とは全く腹ちがひの孝行者ぢや、家督を相續するやうに計らうてくれる。

コオンチール公爵、同夫人リガン、及び侍者大勢ついて出る。

コオン どうなされたな！ 只今こゝへ参ると同時に、奇怪な風説を傳聞つたが：

……

リガン もしそれが事實であるなら、其科人には何様な嚴罰を課しても尙足らない程です。え、どうなされました？

グロー おゝ、奥方、此胸が張裂けるやうでござります、此胸が！

リガン や！ では父上の名附兒が貴下を殺さうしとしましたか？ あの、父上が名

附親におなりなされた、あの兒が？ エドガーが？

グロー おゝ、奥方、奥方、お恥づかしうござりますわい！

リガン もしやエドガーは父上に仕へてゐる彼の亂暴な武士共と交際してはゐま

せなんだか？

グロー それは存じませんが……あんまりな悪行でござる、あんまりな。

エドマ (リガンに) はい、交際してをりました。

リガン それならば不思議は無い、悪心を抱くやうになつたのも。彼奴らが教唆

いたのです、老人を殺いて其財産をほしいまゝに使用せうと思つて。つい

今宵姉上よりお使で、彼等武士共の事を詳細にお知らせがあつて、且つ、若

し彼等が寄寓するために私どもの館へ参るやうであれば、わたしはそれを

避けて、わざとぬやうにしたがよいといふお心添でありました。

コオン 予とても居らんはうがよいのぢや。……エドマンド、お前は父御に對して、

立派に孝子らしう振舞うたさうぢやの。

エドマ 當然の事を務めましたに過ぎません。

グロー 兄の奸謀を知らせくねまして、それから彼れを捕へようと働きまするうち

に、御覽の如き手傷をば受けました。

コオン 追手を出しましたか？

グロー 出しましてござります。

コオン 捕へさへすれば二度と害をさする恐はあるまい。予が力を如何やうにも

利用して志望をお遂げなさい。……エドマンド、お前の孝順の振舞は如何

にも感心の至りぢやによつて、只今すぐに予の家臣に召抱へる。かういふ

忠誠な人物は極めて入用ぢやによつて。

エドマ 他の事はともかくも、忠義だけは盡します。

グロー 彼れの爲に、お禮を申し上げます。

コオン 時にまだ御存じあるまい、何故我々が参つたかを……

リガン 突然に暗の夜を辿つて。グロースタアどの、實は重大な理由があつて、

是非とも貴下の御助言が承はりたいのでござります。父からも姉からも

其中たがひの事情を申越されたのですが、それは邸を離れて返辭をしたは
うが適當であるやうに考へましたの、それぐの使者には此處で返書を渡
す筈になつてゐます。グロースタアどの、御心中は察しますが、暫く忍ん
で、わたしどもの爲に、さしせまつて入要な忠告を述べて下さい。心得ま
してござります。……ようこそ渡らせられました

喇叭。皆々入る。

第二場 グロースタア伯居城の前

ケントとオスワルドと左右より出る。夜明す。

オスワ お早う。お前は此邸の人かい？

ケント うん。

オスワ 馬は何處においてよいな？

ケント 沼の中が好い。

オスワ これさ、知らせてくれい、深切があるなら。

ケント 深切なんざ無い。

オスワ もう汝には關はん、さういふことを申すなら。

ケント へん、關はんとも言へまい、リブスベリの獸類欄に抛込まれる段となつたら。

オスワ 何故そんな無禮なことをいふんぢや？ 汝は見知りもせんのに。

ケント 野郎、おれは汝を見知つてるぞ。

オスワ おれを何と申うてゐるのぢや？

ケント はて、悪黨よ、ろくでなしよ、人の食ひあましを有難がつて食ふ、卑劣な、高慢な、薄つべらな、けちな、三枚着物の、年給たつた百ポンドの、毛絲靴下の、

ちゝむさ野郎め！ 肝つ玉の小ぼけな、何かといふと政府頼みの、下賤な、自惚鏡と睨めくらする、虚飾家、おせつかい、親譲りの財産といつては櫃一個しかない奴隷、體のいゝ慶菴をしかねぬ野郎、悪漢と乞食と臆病者と誘拐者と小牝犬の惣領息子とを混成にしたやうな野郎、もし斯う並べた名を只の一字だつて然うでないといふと吐しやあがると、大聲あげて吠えるまで、撲つてく撲ちのめいてくれたい野郎だ。

オスワ てもまあ何といふ怪しからん奴ぢや汝は、知りもせず知られもせん者に對うて其様に惡體を吐くといふは？

ケント おれを知らん？ 何といふ鐵面皮奴だ汝は！ 王さまの前で足をすくつて、汝をおれが撲りつけたは、まだやつと二日前だ。 さあ、抜け惡黨！

夜中ではあるが幸ひ月が照つてゐる。 汝を材料にしておれが明月汁をこしらへてくれる。 さ、卑劣な、下賤な、氣取屋め、抜きやあがれ。

第二幕 第二場

ケント 劔を抜く。

オスワ 退れ！ 汝にや用は無い。

ケント 抜け、悪黨！ 汝は名聞殿の肩

を持つて、王様のお爲にならん

書面などを持参し、曲事を働

奴だ。抜け、悪黨、抜かんと、

其脛に切形を附てくれるぞ！

オスワ 抜け、悪黨。さあ、突いて来い。

ケント 助けてくれ！ 人殺しぢや！

オスワ 助けてくれ！ 人殺しぢや！

ケント 打つて来い、奴隷め！ 待て、

悪黨、待て。虚飾奴め、打て！



ケント 劔の背にてオスワルドを打擲する。

オスワ 助けてくれ！ 人殺し！ 人殺し！

エドマ どうかしたんだ！ 何事だ？

二人を引分ける。

ケント お若いの、望みなら敵手にならう。さあ、喧嘩の爲方を指南しよう、さあ、

突いて来な。

コオンチール、リガン、グロースターを先に従僕等大勢ついて出る。

グロ 武器を持つて？ 刃物を？ こりや何事が起つたのぢや？

コオン やあ、しづまれ、命が惜しくば！ 立騒ぐと死刑に處するぞ！ どうした

リガン のぢや？ 姉上の使ひの者と父上の使者ではないか？

コオン 何故争闘に及んだのぢや？ 申せ。

オスワ 息が断れて物が言へません。

ケント 不思議はないや、おそろしく勇を揮つたんだからのう。 やい、臆病者、造

化翁も汝は造へた記憶は無いといはうわい。 裁縫師の手で出来た野郎だ

汝は。

コオン 奇怪なことを申す奴。 裁縫師が人間を造るか？

ケント へい、造ります。 石工や書工なら、二時間も職を習やあ、まさか是程拙い

人形は製へません。

リテン どうして争闘に及んだのぢや？

オスワ 此老年の亂暴者が、こやつは先だつて胡麻鹽鬚髻にめんじまして、一命を

助けおきました奴でござりますが……

ケント やい、Z野郎！ 無くても差支のない餘計文字野郎！……殿さま、お許可

さへ出りやあ、おれが此赤土野郎を石灰になるまで踏みのめいて、それで

雪隠の壁を塗つてくれます。……胡麻鹽鬚髻にめんじた？ 此鴛鴦め！

コオン 黙れ！……おのれ、無禮千萬な奴、尊敬といふことを存じをらんか？

ケント 存じてゐます。 でも腹の立つ時は別です。

コオン 何故腹を立つたのぢや？

ケント 如是な、面目玉の附けかたも知らないやうな奴が、劔を附けてゐやあがる

のが癩にさはりました。 斯うにや〜笑つてゐる野郎が、兎角、釋きほぐ

すことの出来んほどに善く結ばれてゐる貴い絆をも、鼠のやうに咬切りま

す。 主人の胸であばれる氣儘我儘を御無理御尤と撫附けます。 燃えたつ

火には油をかけ、冷い心には雪をかぶせ、否と言つたり、然と言つたり、主

人の風の手の變るにつれて、翡翠のやうに嘴の方向を變へます。 何にも

知らんで、犬のやうに、只もう主人の尻に尾いてあるく奴です。

オスワルドでれかくしに笑ふ。

其癡癡面止してくれ！ おれの言ふことを聽いて笑やあがるな？ おれが幫間でいもあるかのやうに。 雁め、汝にセーラムの原で出逢やあ、があくいはせて、キャメロットへ逐ひこくつてくれうに。

コオン

やあ、おのれは、氣が狂うたか？

グロー

何故争論に及んだのぢや？ それを申せ。

ケント

およそ世の中に此奴と手前ほど反の合はないものはありません。

コオン

何故此男を惡黨と呼ぶのぢや？

ケント

面附が氣に入りません。

コオン

さう申した時分には、予の顔色とても、あの仁のとても、奥のとても汝の氣に入らんかも知れん。

ケント

殿さま、正直に言つちまふのが手前の性分です。 斯う並んでゐる肩の上

に、今載つかつてゐる面附よりは、もう少し見つともいゝのを、へい、今までに随分見ました。

コオン

此奴は、無遠慮なのを褒められたところから、故と無禮無作法にもてなし、強ひて性質でもない言動を粧ふと相見える。 手前は阿諛ふことは出来ま

せん、迎も……正直一圖で何の飾もなく……眞實の事を言はざるを得んなぞと！ 世人がそれを容れれば、それで通し、咎めれば、正直一圖ゆると言

ひぬける。 往々にして此類の惡黨がある、小心翼翼として役目を務める世間でありふれた諂諛者共より、正直を賣物にする斯ういふ奴が、えて一段と腹黒で油斷がならんものぢや。

ケント

お殿さまへ、え、眞實、誓言にかけまして、恐れながら、みゆるしを蒙りまして、輝き渡る日の神の御額に渦巻き立つ赫々たる猛火にひとしき……

コオン

何を申すのぢや？

ケント

あなたがお嫌ひなさるから、手前の口吻を變へて見たので。手前は決して諂者ぢやございませぬ。無遠慮で貴下を騙いたとかいふ奴は、そりやあ明々白々の悪黨なのでございませう。手前は貴下の御機嫌が治るからと頼まれても、さういふ悪黨にはなりたくありません。

コオン

(オスワルドに)彼れに對して如何いふ不都合をしたのぢや?

オスワ

何もいたしやしません。王様が、此間、何か誤解をなさいまして、私を御打擲になりました時分に、此男が、王と御一しよになつて、御立腹の後押をいたして、私の足を背後からすくひました。で私がつい倒れますと、侮辱いたしたり、雑言を吐いたりいたして勇者がりますので、えらさうに見えませんが、王が御賞讃になりました、故と負けてをりまするものを攻撃したに過ぎませぬのですが。それから其偉い手柄に味をしめて、今日またこゝで抜いたのでござります。

ケント

臆病者の大ほらふき、こいつらに比べればアジャックスなどは徒の末社だ。

コオン

足枷臺を持つて来い!……おのれ、頑固な老悪黨め、老壯士め、きつと教へてくれる。

ケント

習ふには齡を取り過ぎてゐます。足枷臺を取寄せるのはお止しなさい。私は王さまのお直參で、お使で此方へ參つたのです。お使者を足枷臺に掛けちやあ、王さまの御身分に對して、餘り無作法なお待遇で、失禮過ませうせ。

コオン

足枷臺を取つて来い! 正午までは、決して身動きするな。

リガン

正午まで! 夜までになさい、夜の明けるまでに。

ケント

もし、奥さん、私が父御さまの飼犬であつても、さういふ風にお扱ひなすつちやあ濟みますまいせ。

リガン

飼犬でなくつてお抱への悪黨だから、さうするんだ。

コオン 此奴は姉上から申越された彼徒輩と同類なのぢや。……さあ、足枷臺を持って！

從者ら足枷臺を持出づる。コオンチャール指揮してケントを足枷臺に上らせうとする。グロースター見られてとゞめる。

グロー まゝ、おとまり下されませう。此者の不埒は重大でござります、が、それに對しては御主人の王さまが吃と御譴責あそばさるゝことゝ存じます。こなた様只今おぼしたゝれましたお處刑は、小盜其他違警罪などに罰せらるゝ最もあさましい下賤なる徒輩に相當したる下等の御懲罰でござります。王の使者を斯様にお扱ひになつては、王が定めし、御自身輕しめられたやうに思召されて、御氣色にさへられませう。

コオン 其責は予が負ふ。

リガン 王よりも姉上がお怒なさらう、御用で參つた御家來が、侮辱を受けたり、攻

撃されたりしたとお聞きになつたら。……其奴の脚を填い。

從者立ちかゝりてケントを足枷臺に掛ける。

さあ、あなた、あちらへ。

グロースターとケントの他は皆入る。

グロー (ケントに) お氣の毒でござるのう。いひ出いては後へは退かぬと世間も知る公爵どの、御意ぢやから、是非に及ばん。今に何とか調停ませう。

ケント どうか放擲つておいて下さい。眠ないで、みつちり歩いたから、暫く眠ます。目が醒めたら口笛でも吹いてゐませう。善人の運は踵から延びるといひます。おやすみなさいまし！

グロー (傍白) 公爵のなされかたは善うない。きつと御氣色にさはらう。

グロースター入る。

ケント リヤ王どの、貴下は諺をば身に思ひ知らしやらねばなりませんぞ。天恵

を失うて日向ぼつこり！……(東の空を見やりて) 早う来てくれい、下界の合圖
 火、汝の愉快い光で此密書が讀まるゝやうに！ 災禍極らざれば奇蹟あら
 ずぢや。こりや慥かにコオデリヤどのからの通信ぢや。予が名をも姿を
 も昏まいて斯うしてゐるといふことを都合よくも傳へ聞かれ、時機を俟つ
 て此奇怪な状態から國家を救ひ、百弊を除かうといふ思立ちや。……疲れ
 た上に眠足らんで重たうなつた眼よ、ちやうど好い、此見つともない宿
 を見るな。……運の神よ、おやすみなさい。もう一度白い齒を見せて、車
 の輪を廻して下さい！

ケント眠る。

第三場 荒れたる岡の一部

エドガー出る。

エドガ

布令が出て手が廻つてゐるといふことを聞いたが、幸ひに樹の洞にかくれ
 て追手をまぬがれた。どの港も閉され、どこ一箇所非常な警戒で以て予
 を捕へようとしてゐぬ處はない。のがれられるだけは命を助かるために、
 貧窮が曾て人間をして獸も同様の墮落の極に到らしめた其時の姿も是程
 ではと思ふやうな最もあさましい姿をも取らうと思ふ。顔は汚いもので
 塗りたて、腰には古ゲットを巻き、頭髮はもちやくくにもつれさせ、赤裸々
 で以て風雨雷電にも身を曝さう。さういふ先例は此國のベドラムの乞食
 共ぢや、此奴等は、わめき聲をあげて、癡痺れて無感覺になつてゐる素肌の
 腕へ、針だの、木串だの、釘だの、迷迭香の刺だのを突きたて、怖しげ様子を
 見せて、呪つたり禱つたりして、下賤の農家から、あはれな小ぼけな村から、
 羊小舎から、磨粉屋から、無理やりに布施を貰ふ。なさけないタリーゴッ
 ド！ なさけないトム！ が、まだしもあれは人ぢや。此エドガーは人

でなしぢや。

エドガー入る。

第四場 同じ處

リヤ、阿呆、一紳士出る。

リヤ
紳士

さう急に邸を出た上に、使ひの者を返いてよこさぬといふは不思議ぢや。
私傳 聞りました所によりますれば、つい前夜までは他所へお出張のお思
立は無かつたらしうござります。

ケント 足枷壺に掛つたまゝにて王へ挨拶する。

ケント

王さま、ごきげんよろしう！



リヤ

や？……汝は恥づべきことをば
娛樂ぢやと思つてをるか？

ケント

どういたしまして。

阿呆

はゝゝゝ！ えらい脚絆を穿
いてゐらあ。馬は頭で縛り、犬

や熊は首つ玉で縛り、猿は腰で
縛り、人間は脚で縛る。とかく
脚が働き過ぎると、斯ういふ木
の股引を穿きます。

リヤ

汝の役柄をも辨へんで、かやう
な待遇を致したのは誰れぢや？

ケント

お二方でござります、お婚さま

とお令嬢で。

リヤ いゝや、そんな筈は無ない。

ケント いゝえ、さうでござります。

リヤ うんにや、さうでない。

ケント いゝえ、さうなんです。

リヤ うんにやく、そんなことはせん。

ケント いゝえ、しました。

リヤ ジュピターも照覽あれ、せん！

ケント ジュピターも照覽あれ、しました。

リヤ 彼等かれらはそんなことは決して能ようせん。能ようしもせねば、しようとも思おもは

ん。承知しょうちでかやうな暴戾はうれいを働はたらくは人殺ひところしよりも悪いことぢや。どういふ譯わけで、如何いかなる罪つみがあつて、予よの使者ししやたる其方そのほうに對たいし、かやうな待遇たいぐうを蒙かうら

すに至いたつたか、すみやかに説明せつめいせい。

ケント

殿とのさま、私わたしがお邸やしきへ参まゐりまして、貴下あなた様の御書面ごしよめんをお二方ふたかたにお渡わたし申まうしま

した途端とたんに、膝ひざを突ついて御挨拶ごあいさつをしてまだ起上たちあがりもしませんうちに、汗あせで

湯氣ゆげの立たつてゐる馬うまで以もつて、一人ひとりの使者ししやが息いきを切きつてやつて参まゐつて、其主そのしゆ

人じんのゴネリルさまの口上くわじやうを喘あへぎノ、述のべまして、間あひだに私わたしが居ゐるにも關かまはず、

書面しよめんを差出さしだしますと、お二人ふたりがそれを直すに讀よんで、そこで俄はかかに御家來衆ごけらいしゆ

を呼集よびりつめて、忽たちまちお馬うまにめされました。私わたしには、後あとから來こい、いづれ其その中うち

に返辭へんじを遣つかはすとおつしやりまして、冷淡れいたんなお待遇たいぐう。それから此處こゝで私わたしの

邪魔じゃまをしをりました其使そのつかひの者ものに出逢であひましたが、其奴そのやつは、つい此間このあひだ貴下あなた様さま

に對たいし無禮ぶれいを働はたらいた彼の野郎あやうなんでしたから、分別ぶんべつよりは疝癩かんしやくのほうが先ま

にたつて、つい引ひこぬきました。すると彼奴きやつ、大おほきな臆病聲おくやうこゑを出たしやあが

つて邸中やしきうちの者ものを呼立よびたてましたのです。お婿むこさまも、令嬢むすめさまも、私わたしの所行しよぎやう

阿呆

は此位恥をかゝせて相當だといふお見立でございます。

冬はまだ去つちまはないなあ、雁がそつちへ飛ぶやうぢやあ。

(節をつけて) 親父檻縷着りや子は皆盲目、

親父財布持ちや子は皆孝行、

運の女神は名うての賣女、

錢の無い方にや目もくれぬ。

リヤ

だけれど、お前は、女兒さんのお庇で、年中かンね、(艱難)にや不自由しないや。

(煩悶して) お、癩が、此胸先へ！ ヒステリヤ・パッションめ、下れ、汝、沸上る

心の惱み、汝の居處は下ぢやわい！……我女は何處にをる？

ケント

グロースタアさまと御一しよに此お邸に。

リヤ

従いて來るな、こゝに待つて居れ。

リヤ入る。

紳士

只今うけたまはつた事の外には、何も不都合はせなんだのでござるか？

ケント

何もしません。……王さまは、如何して斯うお侶少なでお渡りになりました？

阿呆

そんな事を問うた罪で足枷に掛けられりやあ當然だがなあ。

ケント

阿呆どん、何故？

阿呆

蟻の許へ往つて教はつて來な、冬は働かんものだよ。鼻を案内者にせね

ば、盲人でない以上は、目を案内者にするね。鼻がありや、二十人が二十

人まで、臭いのは嗅附けらあ。大きな車の輪が山から轉げ落ちる時分に

や、つかまつてゐないことだ、手を離さんと、首の骨を折つちまふ。併し、

登る時にやつかまつてゐて、引張りあげて貰ふがい。おい、聰明な人が

一段善いことを教へたら、今予が教へたことは返してくれ。これは悪黨

にだけ守つて貰ひたいや、阿呆が教へたんだからなあ。

(節をつけて) 慾を目的のお家來衆は、

表面ばかりのお侶でござる。
雨が降りだしやお先へ御免、
後におぬしは濡鼠。

おれは残ります、阿呆は後に、
早う逃げるは聰明者。

逃げりや阿呆も悪黨なれど、

阿呆は悪黨ぢやござんない。

ケント 阿呆どん、お前何處でそれを教はつた？

阿呆 阿呆め、足枷臺なんぞぢや教はらないぞ！

リヤ又出る。グロースター従いて出る。

リヤ おれに面會を辭る？ 二人とも病氣ぢや？ 何ぢや、疲勞してゐる？ 終

夜旅行いたしましたから？ 全くの口實ぢや、叛き悖らうとする徴候ぢや

グロ ひとつと良い返答を聞いて參れ。

御前、御存じの如く、公爵は、あゝいふ一徹な、火のやうなお性質でござり
ますから、お言出しなされたことは、いつかなお退になりません。

リヤ おのれ！ 何を馬鹿な！ ちゝ畜生！ 何ぢや、火のやうな！ 性質が何

とした！ やい、グロースター、こりややい、グロースター、予がコオンヲ
ール公爵夫婦に面談したいのぢや。

グロ 御前、その通りに言上仕りましたのでござります。

リヤ 言上仕つた、彼奴らに？ やい、其方は予を存じてをるか？

グロ 無論存じてをります。

リヤ 國王がコオンヲールに會談せんとするのぢや。慈父が其女と會談せんと
するのぢや、奉公を命ずるのぢや。其方は此儀を二人の者に言上仕つた
か？ ちゝ畜生？ 何ぢや、一徹ぢや？ 火のやうな？ 其火のやうな熱

い公爵とやらに申して来い、王が……

いや、先づ待て。……全く不快なのかも知れん。健康な時には能う務められる職分をも病氣の爲には怠るものぢや。肉體に壓迫を蒙るといふと、肉と共に心も患まざるを得ないやうになる。……まゝ、耐へよう。いはゞ病人の發作同様の事であるのを、おれの我儘な心は、それを健康な者の所爲のやうに見ようとする。……

ふと又ケントに目をつける。

おのれ〜！ 何科あつて彼れをかやうな目に逢はせをつた？ これで見ると、公爵夫婦の此處へ来たのは謀計に相違ない。……予の家來を渡せ。公爵夫婦に申せ、予が面會したいといふと、只今直に。出て參つて拜承れ、參らんければ、此方寢所口へ參つて、太鼓で睡眠を叩き破るぞと申せ。

ゲロースター入る。

ゲロ

どうかしてお中の和ぐやういたしたうござる。

リヤ

お、此心、此さしこんで來る心！ 下れ！

阿泉

たんと心をお叱りよ、小父たん、魚鰻頭を製へるとして、生きた鰻を餛飩粉の中へ入れた下婢どんのやうに。熱いから飛出さうとすると、下婢どん、鰻の頭を菜箸で叩いてよ、引込みな、無作法な奴だよ、引退みな！ つて。氣の毒だらうつて、枯草にバター附けて馬に與れたのは、其下婢どんの阿兄だつさ。

ゲロースター先に、コオンチール、リガン、及び従者等出る。

リヤ

お早うござるの。

コオン

御機嫌よろしう！

コオンチール何事か従者にさしやく。従者一二人立ちかゝりてケントを足枷臺から下す。

リガン (王に) お目にかゝつてお嬉しう存じます。

リヤ リガンよ、さうもあらう。さうなうてはならん筈ぢや。もしも嬉しう思
うてくれんやうであれば、幕の中のそなたの母を不品行を働いた女と見做
いて離縁せうと思つた。……

此中ケントの放免されたのに目を附け

お、免されたか？ その事は又別の時に……(リガンの手を取りて)リガンや、
姉は不可い奴ぢや。お、リガン、姉めは角鷹のやうに残忍な、不孝な、鋭
い爪で、これ、此處を貫きをつた！ 胸が一ぱいになつて言はれん。リガ
ンよ、逆もそなたは眞實にはすまい、姉めがそれはく酷いとも何とも……
…お、リガン！

王リガンの胸に顔をあて、泣く。

リガン まあ、あなた、静かになさいまし。わたくしは、姉上の眞價が貴下によく

リヤ お解りになつてゐないのだらうと存じます、姉上が義務をお盡しなさらん
といふよりは。

リヤ え、それはまた如何して？

リガン わたくしには、姉上が聊かたりとも義務を怠りなさるやうなことがあらう
とは思はれません。もしも、或は、あなたの御近侍衆の亂暴を御譴責なす
つたかも知れませんが、それは多分姉上の越度にはならんやうな立派な目
的にもとづいた正当な理由のあることだらうと存じます。

リヤ あの姉の不孝者めが！

リガン お、あなた、あなたはお齡を取つていらつしやる、もう御壽命も行止りに
なつてゐるのです。あなたの事を貴下御自身よりも善う辨へてゐる人が
ありますから、さういふ人に何事も任せて、おとなしうしていらつしやる
がよいのです。ですから、どうぞ姉上のお邸へお歸りなさいまし、さうし

て、わたしが悪かつたとおつし
やい。

リヤ
彼女に詫ろといふのか？ 見い、
それが家長たる者に似あふか。

リヤ 膝まづきてゴネ
リルに謝罪する爲を
する。

リガン
「我女よ、わしは齡を取つてゐま
す、老人は無用なもんぢや、斯う
膝を突いて願ひます、どうぞ着
る物を下さい、寢床を、食物を。」
父上、お止しなさい。 見とも



なうございます。 姉上のところへお歸りなさいまし。

リヤ
（起上りて）決して歸らん。 姉めは予の附の者を半数に減らしをつた上に、予
を睨みつけて、蝮のやうな残忍な毒舌を以て、これ、此胸を貫きをつた。
天上に貯へおかれた有りとある懲罰よ、恩を知らぬ彼奴の素頭に墮ちか
ゝれ！ 汝人を害ふ毒風よ、彼奴の若い骨々に浸入つて、不具者にしてく
れい彼の不孝者を！

コオン
馬鹿なことを、もしく、馬鹿なことを！

リヤ
汝神速なる電光よ、眼を眩す汝の猛火を、あの人を侮蔑みをる眼の中へ射
込んでくれい！ 強烈なる日光の吸上る沼の毒氣よ、降り下つて、美しい
を自慢の彼奴の面をめちやくくにしてしまふてくれい！

リガン
おゝ、ま、怖い！ その通りに私にもおつしやるでせう、お腹が立てば。
リヤ
いゝや、リガン、そなたは決して予に呪はれるやうなことはない。 そなた

は柔和しい性質ぢやによつて、酷い荒々しいことはせん。姉の目は猛うて火のやうちやが、そなたのは柔しい。おれの娯樂をば吝んで、附の者を減いたり、がみくと口返答をしたり、約束の隠居料を切縮めたり、つまり、おれの入つて來んやうに、門を横たへるやうなことは、そなたの持前には無いことぢや。そなたは子たる者の本分をよう知つてゐやる、自然と守らねばならぬ義務を、親に對する禮義を、恩に報ゆるの道を知つてゐやる。そなたは此王國の半分を予がそなたに遣つたことを忘れやせん。

リガン

父上さま、肝腎の御用のはうを拜承りませう。

リヤ

予の家來を足枷臺に掛けたのは誰れぢや？

此時奥にてタケット聞ゆる。

コオン

あの喇叭は何ぢや？

リガン

あれはきつと姉上です。直に行くといふ書面でしたが、果して見えたの

です。

オスワルド 出る。

御主人が見えましたか？

リヤ

(オスワルドを覗みて) 何時變るともはかられん女主人の恩寵を力に、虎の威を

我物貌に見せびらかしあるく狐奴め！……退りをらう！

コオン

如何なさらうといふので？

リヤ

予の家來を足枷臺に掛けたのは誰れぢや？……リガンよ、よもやそなたは

知らんことであらう。……誰れぢや來たのは？

ゴネリル 出る。

お、天にまします神々、もし神々にして老人を憎みたまはずば、神明若し孝行を嘉したまは、これをば餘所事とばし思召さるな。御使神をお下しあつて、何卒お身方下されい！……(ゴネリルを覗みて) やい、おのれ、此髯を

見ても恥ぢをらぬか？

此時 リガン 進み迎へてゴネリルと握手する。

おゝ、リガン、そなた其奴の手を取るのか？

ゴネリ

手を取つては何故悪いのです？ わたくしが如何いふ不埒を致しました？

無分別や老耄が不埒と名附けることが必しも總て不埒ではございません。

リヤ

おゝ、此胸！ 善う裂けんである！ まだ持ちこたへてをるか汝は？……

(コオンチールに) 如何して予の家來が足枷臺に掛けられたのぢや？

コネン

私が掛けさせました。此男は、もつと優待の度を減らしてもよい程の亂

暴を働きましたのでござる。

リヤ

お前さんが！ え、お前さんが？

リガン

父上、あなたは弱いんですから、弱さうにしていらつしやい。もし、お戻

りになつて、此月の末まで姉上と御一しよにお住ひになつて、お附を半數

になさいましたなら、それから私共へいらつしやいませ。只今は邸を離

れてをりますし、あなたをお款待申さうと存じましても、それに必要な準

備が何一つ出来ませんのです。

リヤ

姉の邸へ戻れ？ さうして五十人だけ減らせ？ いゝや、戻らん、戻る位

ならば、誓つておれば、屋根の下には居らん、雨風の憎しみと闘つて、狼や

梟を友達にして、絶體絶命の身を斫るやうな苦しみを味うたはうがましぢ

やわい！ 彼奴の處へ戻れ！ 彼奴の處へ戻る位なら、あの血の氣の多い

フランス王、未女を化粧料も無しで伴れて去つたあのフランス王の椅子の

前に膝を突いて、青侍か何ぞのやうに、見すばらしい露命を維ぐための捨

扶持を乞うたはうがましぢやわい。彼奴の處へ戻れ？ 何故寧ろ予に勸

告めん、(オスワルドを指さし) 此下郎めの奴隷になれ、馬になれと何故勸告め

ん！

ゴネリ

そりや貴下の御隨意です。

リヤ

(ゴネリに) 我女、どうぞ子を狂人にさせてくれるな。おのしには最早厄介は掛けん。さやうなら。もう二度とは逢ふまい、又と顔を見ることはすまい。……と言つても、おのしは、切つてもしれん子の肉ぢや、血ぢや、實女ぢや、いや、肉といふよりも肉の中の悪い病、悪い奴ぢやけれど、子の有であると言はねばならん。おのしは子の腐つた血の生み出した腫物ぢや、悪い瘡ぢや、腫れ擴る癰疽ぢやわい。併しながら予やおのしを呪ふまい。おのしが恥辱を蒙らうと蒙るまいと、それは天に打任いて、予はそれを祈りません。雷におのしを擊殺せともいはん、天で裁判をなさるジョーヴ神におのしの悪事を告訴もせん。改心の出来る時が來たら改心せい、其うちとつくりと考へて善人になれ。予は耐へてくれる。リガンの許にゐればよいから、予と百人のものが。

リガン

さういふ譯にも参りませんよ。わたくしはまだお出にならうとも豫期してをりませんでしたし、お迎へ申しますに適當な準備とでも至してをりませんから。お聴き遊ばせな、あなた、姉上の御意見を。そりや貴下が我儘には相違ない、けれども思慮分別のある方であつて見れば、貴下の御老年といふことを思つて、忍耐して……尤もこれはいさいでも、姉上のような御存じの事でございますけれど。

リヤ

そんなことを言うて、お前は當然ぢやと思ふか？

リガン

はい、當然ですとも。え、五十人のお附ですつて？ 結構ぢやありませんの？ 何の必要あつて其以上が要ります？ はい、又は五十人だけでも何の爲に？ そんなに大勢お抱へになつておくと、費用も危険も募らうぢやありませんか？ 一つ邸に、二種の命令の下に、大勢の者がゐて、如何して和親が保たれます？ それは困難なことです、殆ど不可能です。

ゴネリ あなた、何故妹なり私なりが家來と呼んでをります者をお使ひなすつては
不可ませんのです？

リガン 何故不可ませんの、あなた？ もし彼等に不行届がございませうなら、私
共が吃と取締ります。もし私共へお入になりますやうなら……どう
やら入らつしやりさうで危い……どうか二十五名だけに願ひます。その
以上は御免を蒙ります。

リヤ そちたちには何もかも遣いたのに……

リガン ちやうど好い時に下さいましたの。

リヤ のみならず、そなた達を予の後見とし、一切の権力を委任した其代りに、百
人だけは傍仕の武士を必ず附けておくといふ約束であつたのに。何、二
十五人以上を伴れて来てはならん？ リガン、そなた然う言うたか實際？
リガン はい、もう一度申します。私はそれ以上はお断り申します。

リヤ 猛惡な顔附も見よくなる、上手の猛惡な奴が出ると。最上の猛惡でない
だけが幾らかの取得ぢや。……(ゴネリに) 其方の許へ往かう。そなたの

五十人は二十五人の倍ぢや、すればそなたの愛は彼れの、倍ぢや。

ゴネリ まあ、お聴きなさいまし。何の必要があります二十五人のお附なんか？
十人だつて、いゝえ、五人だつて？ もし御用があれば、邸には其倍程の者
がゐてお世話をするぢやありませんか？

リガン 何の必要があります一人だつて？

リヤ え、必要を論じるな。見るかげもない乞食さへも、其貧窮の極に在つて、
猶何か餘計なものを持つてゐる。自然が必要とする以上を人間に許し與
へぬ時には、人の生と獸類と擇ぶ所が無いわい。其方は貴婦人ぢや、もし
只暖かくさへしてゐれば、それで貴婦人の服装が足るものなら、自然は決
して其方が今着てゐるやうなそんな綺羅びやかなものを必要とはせぬわ

い。それは暖を取る用には立たん。併し、まこと必要といふは……お、
 天の神々よ、吾等に忍耐を賜りませ、吾等に必要な忍耐を！ これ、御覽せ
 よ、神々、齢も積り悲みも積つて、見るも哀れな此あさましい老人をば。こ
 れなる女兒共を父に叛かしめられまするは、尊神がたの御意でござるか、
 よしさうであるにせい、いつまでも此奴らの爲すがまゝになつてゐるほど
 に、それほどに手前をば玩弄になされて下さるな。男らしい怒を起させ
 て下され、女の武器の涙なんぞに此男子の生面を汚させて下さりますな！
 ……

王男泣に泣く。

うんにや、おのれ、不幸不倫の賊婦め、今に仕返しをしてくれる、怖いこ
 とをしてくれる……全世界が……どんな事かまだ解らんが、世界中を怖れ
 戦かすやうな事をしてくれる。おのれらは手が泣くだらうと思ひをらう

が、いゝや、予は泣かぬわい。

電光。雷鳴。風雨。

泣きたうてならぬけれども、おのれ、泣く位ならば、此心の臓をば千萬片に
 引裂つてくれうわい！

阿呆の肩にもたれかゝりて

お、阿呆よ、予や狂人になりさうぢや！

リヤ、グロースター、ケント、阿呆入る。

コオン 奥へ往かう。 あらしになりさうぢや。

リガン 此邸は狭いから、老翁と家來とでは逆も入りきりやあしない。

ゴネリ みんな御自分がわるいのさ。求めて安樂を棄てなさるのだから、自業自

得で辛い目も見なさらんけりやならん。

リガン 父上だけなら歓迎しますけれど、お附は一人だつて困りますもの。

ゴネリ わたしもさう思うてゐます。……グロースターアどのは何處へ往きまし
た？

コオン 老翁に尾いていつたが……あ、戻つて来た。

グロースターア出る。

グロウ 王は大へんなお腹立でござります。

コオン どちらへいらつしやらうといふのぢや？

グロウ 馬をくとおつしやりますが、どちらへおこしやら、存じません。

コオン うつちやつておくがよい。好きこのんでなさるここぢや。

ゴネリ あなた、強ひて止めないがようございます。

電光。雷鳴。風雨。

グロウ あゝ！ 夜にはなる、烈しい風が怖しう吹荒れる。こゝいら數哩の間は
殆ど叢さへもない。

リガン

おゝ、頑固な我儘な人には自業自得の苦痛が、きつと良い教師になります。
門口を閉めておしまひ。父上には亂暴な武士共が附いてゐるから、どん

な好い加減のことをお耳に入れて、何をお教唆め申すか、知れたことでは
ない、思慮があれば、是非警誡せねばなりません。

コオン

(グロースターアに) 門戸の縮りをなさい。ひどい晩ぢや。いかにもリガンの
おつしやる通りぢや。あらしを避けう。あちへ。

皆々入る。風雨雷電。

* * * * *

第三幕

第一場 荒野

なほ雷電風雨。暗夜。ケントと一紳士と左右より出る。

ケント

誰れだ、此ひどいあらしに?

紳士

此方の心も此天氣同様に亂脈ぢや。

ケント

お前さんか? 王は何處にいらつしやりますか?

紳士

荒れ狂ふ雨風と闘うていらせられる。風に對うて、やれ、地球を海の中へ吹込め、さうでなくば、何もかも一變させるか滅却させてしまふために、巻返る海を大陸まで吹上げいなぞとおつしやつて、あの白い頭髪を搔きりなされると、怒りたける烈風が暗雲にそれを攪つて、縦横無盡に玩弄にする。

王は人間の小天地を以てして、相闘うてゐる大天地の雨風をないがしろにしようとしていらせられる。乳の盡きた熊さへも潜み、獅子や飢えた狼も能う出歩かぬ如是晩に、帽子もめさいで、駈歩いて、棄鉢になつていらせられる。

ケント

だれかお傍にをりますか?

紳士

いや、阿呆ばかりぢや。彼れが例の駄洒落で斷腸のお苦しみを強ひて打消さうと力めてをる。

ケント

私はお前さんを善う知つてゐますから、見込んで一大事をお托し申したい。巧みに隠してござるから、表面にはまだ見えませんが、アルパニーどのとコオンワールドのとは怖しく中がわるく、又二人とも、其忠義めかす家臣の中に、内々フランス王の間者となつて、見たこと聞いたことを細大となく彼方へ通信する者がござる、……運の星のお底で高い位に在る人には、

兎角さういふ臣下が附いて廻るもの。……そこで兩公爵の口論から、陰謀から、老王に對する虐待から、乃至それらの遠因とも見做すべき秘密までも、とうに通信に及んでをりまするさうな。それはともあれ、フランス王が此内訌に乗じて攻寄せるといふことは、事實で、吾々の油断を機として既に主立つた港々に上陸し、今にも旗を翻さんとしてゐるといふこと。さてお前さんへの頼みぢや。もし私を信じて急いでドーヴァまで行つて、王が何様な不倫な取扱に逢うて、お氣が狂ふほどな悲しみをなされたかを正しう報道して下されたならば、必ず厚く其勞を感謝さるゝ人にお逢ひなさらう。私は氏も育も紳士ぢや、傳聞り及んだことがあつて、お手前に此役目を托しますする。尙よくうけたまはりませう。

紳士

ケント

いや、それは無用ぢや。手前は表面に見ゆるよりも以上の者ぢやといふ

證據に、此財布を抜いて、中の金子をお使ひなさい。もしコオデリヤさまにお逢ひなされたら……必ずお逢ひなさらうから……此指輪を御覽に入れて下さい、さすれば私が何者ぢやといふことは、實際お話になるであらう。……

あらし烈しくなる。

え、此あらしは！ 王をお捜し申して來よう。

紳士

お手を。(手を振合ふ) 何か外に申し残された事は？

ケント

ほんの一言、併し今まで申したよりも大切な事、といふのは、王をお見附申したなら……お前さんは其方へ、わたしは此方へ往かう……真先に見附けた者が大きな聲で呼ぶことにしよう。

二人入る。

第二場 荒野の他の一部

尙あらし。リヤと阿呆と出る。

リヤ

吹けい、風よ、汝が頬を破れ！ (風の音) 荒れ廻れ！ (風の音) 吹きをれやい！

(大雨) 汝瀧津瀬よ、龍巻よ、吹け水を、風見車を溺らし、(電光) 尖り塔の頂を

水浸しにしてしまふまでも！ 汝、思想の如く疾く走る硫黄の火よ、樞を

突裂く雷火の前驅の電光よ、我白頭を焼焦せ！ (雷鳴る) おゝ、汝、天地を震

動する霹靂よ、此圓い厚い地球を平面に打砕いてくれい！ あらゆる造

化の鑄型を砕け、思知らずを造るありとあらゆる物の種子を打潰してくれ

い！

あらしますます烈しくなる。

阿呆

おゝ、小父たん、乾いてる邸の中の聖水のはうが、此戶外の雨水よりはまし

リヤ

だ。小父たんや、お歸りよ。女兒さんにお祝福をしてお貰ひよ。聰明者

も阿呆も斯ういふ晩には悲惨だ。

思ふ存分に吹け！ (電光) 吐け火を！ (大雨) 噴け水を！ 雨も風も雷も

電光も予の女兒ではないわい。汝等が如何に子を苦めをつても不孝不仁

ぢやとはいはぬわい。汝等には王國を遣りもせねば子と呼んだこともな

い。汝等は子に仕へる義務はないのぢや。勝手に怖しいことをしをれ。

予は汝等の奴隷も同然の、見すばらしい、弱い、見さげられた、衰へ果てた老

人ぢやわい。さうはいふものゝ、汝等は、天の使はしめとしては、卑屈ぢ

や、あの邪曲な二人の女兒共に合體して、此齡を取つた白髪頭へ天の軍を

向けるとは。おゝ！ おゝ！ 卑劣ぢやわい！

あらし尙激しく荒れる。

阿呆

頭を容れるだけの家の有る人は、立派な兜を有つてゐるのだ。

頭の容處もまだ無いうちに、
犢鼻褌の置場を造ろうとすれば、
頭もお的も半風子だらけ。
乞食の婚禮は皆それぢや。
心と指とをつい取違へ、
足の指をば石のやうにすれば、
肉刺が痛うて眠られんで、
夜がな夜つびて泣き明す。

何故と言やれ、鏡の前で變妙來な面をしない美人なんて在るもんぢやないや。

リヤ

いや〜、堪忍の模範にならう。

何にもいふまい……何にも。

尙あらし。



ケント出る。

ケント 誰れだ？

阿呆 寶冠と犢鼻褌、といふのは聰明者と阿呆のこつた。

ケント

はれま、こゝにお在なさいましたか？ 夜を好む動物でも如是晩は好みません。此荒れに恐れて、暗をうろつく奴輩さへ、洞穴から出掛けません。物心おぼえましてから、こんな激しい電光、こんな怖しい雷鳴、こんな酷い雨や風は、曾ぞ聞いたこともござりません。人間の身では、逆もかういふ苦しみや恐れには堪へられません。

はげしき雷電。

リヤ

我頭上に斯く怖しく荒び廻る神々をして、其目ざす敵を見出さしめよ。怖れよ、汝、幸ひに今日までは法網をまぬがれたれども、人の知らぬ大罪を犯したことの悪漢よ、慄ひ戦け。隠れよ、汝、人殺しの記憶ある奴。汝、

偽誓の罪ある奴。汝、邪淫を犯しながら表に貞操を粧ふ奴。身の寸裂るるほど戦慄せい、汝、うまくと人目を昏まし、謀つて人を陥しいれをつた悪黨め、戦慄せい。ありとあらゆる隠匿よ、汝の包み藏いてをることを打開いて、此怖しい召喚に對して慈悲を願へ、慈悲を。予は、罪を犯いたといふよりは、罪を犯されてをるものぢやわい。

尙あらし。

ケント

やれまあ、帽子もめさないで？ 御前さま、すぐ彼處に石小屋がござります。此あらしをお凌ぎなさるだけのことは彼處でも出来ませう。そこで暫く休んでいらせられませ。其間に私があの酷薄な、石小屋とは言へ、石よりも酷薄な……つい只今も、貴下の事を尋ねましたら、てんで入らせませなんだ……あの酷薄な家へ參つて、無理にも深切を盡させます。

尙あらし。

リヤ

氣が狂ひさうになつた。……(阿呆に)こりや、小僧。 どうした、小僧？ 寒い
か？ おれも寒いわい。……(ケントに)その藁床といふのは何處にある？
…困窮といふものは不思議な法力を有つてゐて、どのやうな穢らしいもの
をも貴いものになし得る。……さあ、その石小屋とやらへ。……やい、阿呆よ、
予や何だかおのしが惘然でならんわい。

王倒れかゝる、ケント阿呆介抱する。

(節をつけて)小ちやい、智慧しか無い身は

めでたからうが、雨風吹こが、

運に機嫌を任さにやならぬ、

雨が毎日降らうとも、雨が。

其通りぢや。……さあ、其小屋とやらへ案内せい。

リヤとケントと入る。

リヤ

阿呆

淫亂な女も貞女になりさうな結構な晩だ。(観客に對ひて)入退む前に、豫言
を仕りませう。

僧侶が行爲より、言葉を先にするやうになれば、

醸酒屋が麴に水を混るやうになれば、

貴族たちが裁縫師を教へるやうになれば

賤婦の旦那は無事、邪宗信者ばかりが焼れるやうになれば、

訴訟の判決は悉皆正しいといふやうになれば、

借金する侍もなく、貧乏な武士もないやうになれば、

悪口といふものが舌に上らなくなれば、

巾着切が雑沓へ來なくなれば、

高利貸が野原で金を算へるやうになれば、

妓夫や淫賣が教會堂を建ててるやうになれば、……

はて、然る時には、此大英の王領が大騒動となりませう。

其時こそは、誰れが存へてゐて見るか知らんが、

不思議千萬の時節と相なる、……

歩くには必ず脚を使ふ。

此豫言はマアリンがする筈ぢや。予は彼男よりも前代でござる。

阿呆入る。

第三場 グロースタア居城内の一室、

グロースタアとエドマンド出る。

グロ

あゝ、あゝ、エドマンド、予は斯ういふ不孝な所行は好かん。王をおいた
はり申したさに許可を乞はう。したところ、公爵夫婦は壓制にも我邸を専

領して、若し王の爲に辯解したり、歎願したり、乃至如何様にでも助けいた

エドマ

はらうとしたならば、永久に勸氣を命ずるぞといふ宣告ぢや。
何といふ亂暴な、無法な！

グロ

さあゝ。何にもいふまい。……兩公爵が不和となられた以上に、まだそ

れよりも悪い事が起りかゝつてゐる。予は今夜一通の書面を受取つたが、
それを口外するのは危険ぢや。その書面は予の居間に錠おろしてしま

ておいた。王が受けられた此侮辱は、みつちり返報さるゝ時が来よう、も

う既に一部の軍勢が上陸したのぢや。予は王のお身方をせねばならん。

これから王をお捜し申して、内々でお助け申さう。そなたは公爵と話を

してゐてくれい、予の舉動を勘づかれんために。もし何處へ往つたと問

はれたら、氣分が悪うて寝たと言へ。これが爲に一命を失ふとも……さ

う申し渡されてゐるのぢやが……久しい御主君の王は、是非お助け申さね

ばならん。エドマンドよ、いろ／＼奇怪な事が起りかゝつてゐるわい。
よいか？ ぬかるまいぞよ、

クロースター入る。

エドマ

禁制の忠義三昧を、今に公爵が勸附くに相違ない、又其手紙のことも。こ
いつは好い勳功になるらしいわい。親父の失するその一切の財産が、予
の物になる。老年が倒れると、青年が頭を持上げる。

エドマンド入る。

第四場 荒野 石小屋の前

尙あらし。リヤ、ケント、阿呆出る。

ケント

こゝでござります。御前さま、お入りなされませ。野原の夜のあらしに

リヤ

は、逆も人間の身體は堪へられません。

ケント

うつちやつとけ。御前さま、こゝへお入りなされませ。

リヤ

おのれ、おれの心を裂うとしをるか？

ケント

寧ろ私の心が引裂きたうござります。……まあ、お入りなさりませ。

リヤ

おのしは、此大あらしに肌膚を襲はれる位の事を偉いことのやうに思ひを

ケント

るか？ おのしには然うもあらうが、大きな苦痛に取附かれてをる場合に

リヤ

は、小さい苦痛などは感じないわい。荒熊を怖がるは人情ぢやが、行手が

ケント

鳴渡る海であれば、熊の口にも立對ふ習ひぢや。心が安樂な時には身體

リヤ

が孱弱いが、心に大あらしが荒れてをる時分には、感じるは心の苦悶はか

ケント

りぢや、外には何の感じもないわい。……子として親の恩を思はんとは！

リヤ

……子として親の恩を思はんとは！

ケント

……子として親の恩を思はんとは！

口へ食物を運ぶ手をば、其口が嚙切るやうなものぢや。……しかし屹と今に罰してくれう。いゝや、もう泣きやせぬわい。

雨はげしく降来る。

こんな晩に閉出すとは！ 降れ〜。なに、これしきに。……このやうな晩に？ おゝ、リガン、ゴネリル！ 齡を取つた、汝等の慈愛ぶかい父を、惜氣もなく、有つたけを興れてやつたに……おゝ、そんな風に考へると氣が狂ふ。さう思ふのは止めう。もう〜そんなことは思ふまい！

ケント

御前さま、ま、こゝへお入りなされませ。
どうぞ、まあ、おのし入つて休んでくれ。此あらしが無かつたなら、もつと〜胸苦しからうに、此あらしが紛らかいてくれる。……だが予も入らう。……（阿呆に）入れ、小僧。先へ入れ。……あゝ、住む家も無い貧乏人ども……（阿呆に）いゝや、おのし入れ。予は祈禱をして、それから眠よう。……

阿呆石小屋の中へ入る。あらし尙荒れ〜く。

あゝ、世間の着る物もない憫れな貧乏人ども、何處に今ゐるにせい、此やうな酷い暴風雨に遭うて、頭を容れるだけの家もなく、飢えて脇腹は骨立ち、着る物は寸裂れ開いて肌膚も露はな……如何して汝等は此やうな氣候を凌ぐぞ？ おゝ、今日が日まで其點に心が附かなんだわい！……驕奢に耽る徒輩よ、悟りをれ。世の不幸な者共に同感し得るために、雨風に身を曝し、おのれの有餘るものを貧乏人共に撒き與へて、天道の是なることを世人に知らせい。

エドガ

（石小屋の中にて）一尋半だい、一尋半だい！ あはれなトムでござい！

阿呆小屋から逃げ出る。

阿呆

小父たん〜、入つちや不可い、化物がある、化物が。助けてくれ〜！

ケント阿呆を庇ひて

ケント こつちへ來な。(小屋に對ひて)誰れた、そこにゐるのは？

阿呆 化物だく。あはれなトムでございといつてら。

ケント やい、其藁の中で唸つてゐる汝は何だ？ 出て來い。

尙あらし。エドガー狂人に假粧し、腰だけに古ゲットを巻き、殆ど裸體。棒を持ち出て出る。

エドマ あつちへ去け！ あゝ、悪魔めが尾いて來をる！ 風が吹きます茨の中を。

ふうむ！ 寢床へ入つて暖たまれ。

リヤ (エドガーをつつく詠めて) 何もかも女兒共へ遣つちまつたか汝は？ それで

そんなになつたか？

エドガ 誰れが何をくれるぞい憫れなトムに？ トムをば悪魔めが、火の中や燭の

中や渡や渦巻や澤や沼ん中を引張廻しやあがつて、枕の下へ庖刀を容れといたり、床几に首縊繩を載せといたり、粥の中へ殺鼠薬を入れたり、高慢な

心を起させて、四寸しかない橋の上を鳶色のよたく馬で渡らせたり、それ、悪黨が來たといつて、自分の影坊師と走りくらをさせたりしやあがる。

……あらし。

神さまが五つの智慧をお守りなされます！ トムは寒うござります。

おゝ、どでどで。神さまがお守りなされます、こなたには旋風が當

らんやう、星にも魔物にも祟られんやうに！ あはれなトムに施物を遣つ

て下さい、悪魔めが窘めます。そら、今おれが取捉へてくれる。そら、

其處だ、そらまた、そら。

棒を持ちてあちこちを叩き廻る。尙あらし。

リヤ え、女兒共の所爲で、かういふ窮境に陥つたか？ 汝は何にも残しておく

ことが出來なんだか？ 何もかも與れてしまふたか？

阿呆

さうでないよ、ケットだけ保存いたわな、あれが無かつたら傍の者が赧い顔をせにやならんわ。

リヤ

人間の不埒を罰するために此空中に漂ふありとあらゆる疫毒よ、おのしの女児共の頭上に降りかゝれ！

ケント

彼れにや女児はございません。

リヤ

黙れ、虚言者め！ 不孝な女児でもなければ、人間がこんなあさましい有様になる筈がないわい。

此前よりエドガー 荆棘などを以て自ら腕や股を刺すことあり。

エドガ

このやうに自身の肉を酷くするのは、子に棄てられた父親の定習か？ 正當な懲罰ぢやわい！ 塘鷺娘を生んだのは此肉ぢやによつて。

ピリコクがピリコク山に棲止つた。アロー、アロー、ロー、ロー！

阿呆

どいつもこいつも如是寒い晩にや、阿呆か狂人になつちまはあ。

エドガ

悪魔の御用心々々々！ 親達の言ふことを善う聴かつしやい、約束を正直に守らつしやい、誓言をすまいぞ、主のある女を犯すまいぞ、常綺羅道樂をすまいぞよ。トムは寒うござります。

リヤ

おのしは元は何ぢや？

エドガ

お侍よ、へん、いばつてゐたもんだよ。先づ前髪は縮れさせる、帽子には手袋を附ける、奥様の御内意に任せて折々暗いこともする。誓言は口から出任せ、それを又天道さまの前で、おほつびらに破つてのける。寝る前には女を引掛けることを考へ、起きりやあそれを實行する。酒は大好き、博奕は好物、女と來ちやあトルコ人そこのけ、輕薄で、早耳で、残忍で、懶惰なことは豕、狡猾なことは狐、狼のやうに大喰ひ、狂ひはじめると犬、手荒いことは獅子。これ、靴音や絹すれに現を抜かいて、女つ子に甘く見ら

れなさんな。賣淫屋へは足を、腰巻へは手を、證文へは筆を入れんやうにして、屹と悪魔を追拂ひなさい。風が吹きます、荆棘の中を！ 絶えず吹きます寒風が。スワム、マム、ノンニーと言やあがらあ。小僧やい、ドーフィンやい。セッさ！ 歩かせろい。

あらし尙つゞく。

リヤ
 幕へ入つたはうがましぢや汝は、其裸體を如き激しい雨風に曝らすよりは。あゝ、人間は斯くの如きものに外ならんか？ ようあの男を見い。汝は、蟲に絹も借りず、獸に皮も借りず、羊に毛も借りず、猫に麝香をも借りてをらん。や？ こゝに外面を飾り拵へてゐるものが三人居るわ。汝は有りのまゝぢや。着飾らん人間は、汝のやうな見すばらしい、赤裸々の、二本足の動物たるに過ぎんぢや！ とつちまへく、此借物を！ さあく、此釦をはづいてくれ。

阿呆

王被服を引裂くやうにして脱棄てる。あらし尙つゞく。
 小父たん、まあお止しよ。今夜は泳ぐには不可い晩だよ。……廣い野原へ小ぼけな火ぢやあ多淫老爺の心の臓と来てゐる、火花が些少、冷切つてゐらあ。(一方を指し) 御覽よ、あそこへ火が歩いて来た

遠方にグロースタアの携へ来る炬火見ゆる。

エドガ

ありやあフリバチジベットだ。宵の鐘が鳴ると歩き出して、一番鶏が啼くと去つてしまふ。底霧にするも斜視にするも兎唇にするも彼奴だ。白小麥を徴させるのも蚯蚓を殺すのも彼奴だ。

(節をつけて)キットホオドのお上人さまが、

三度お山でお出逢なさる、
 夢魔と九頭の其使はしめ、
 待てと一聲、

以後訓誡めて、

去ろ、魔法使ひ、去ろ、やんれー

ケント (王に) どうなされました？

グロースター 炬火を持ちて出る。

リヤ 誰れぢや彼れは？

ケント 誰れだ、そこへござつたのは？ 名前は？

エドガ あはれなトムでござい。 トムは雨蛙や蝦蟇や蝸斗や蝶螺を食つて、小便を飲みます。 悪魔が荒れると、トムは狂人のやうになつて、生菜の代りに牛糞を食つて、老鼠や死んだ犬を嚥下にする、溜り水の青ぶを飲じ、十軒家から十軒家へ追ひたてられ、足枷を掛けられる、酷い目に逢はされる、牢へ入れられる。 脊中にや三枚、シャツは六枚、馬にも騎れば劍も下げ……
(節をつけて) されど七年このかたは、

驢鼠や小鼠が

トムの檀那のお食料

おれには憑物が附いてるぞ。 叱々、スマルキン！ 叱々、此悪魔め！

グロー やれまあ、此やうな者共の外に、お侶もないのでござりまするか？

エドガ 黒闇の王さまはお歴々だ。 モドーとおつしやるんだ、マヒューともいはあ。

グロー 御前、血を分けた者までが、近時はあさましい振舞を致します、生んだ親さへも憎う思ひまする程に。

エドガ トムは寒うござります。

グロー 私と、一しよにあちへ入らせられませい。 忠義を存じますれば、お令嬢がたの酷い御命令に順うてはをられません。 門を閉ぢて、貴下さまを此の夜の大あらしに曝け出しておけといふ嚴命でござりますが、私はそれに關はず、貴下をお捜し申して、火や飲食物の在る處へ、御案内しようとして参り

ました。

リヤ いや、先づ、此哲學者と一問答しよう。……(エドガーに)雷鳴の原因は何ぢや？

ケント 御前さま、あのお方のおつしやる通りになさいまし。家の在るところへいらつしやりませ。

リヤ 予は此博學なシープス人と一言をまじへたい。……(エドガーに)お前さんは、如何いふことを専門になさる？

エドガ 悪魔の先を越して、南京蟲を殺すんで。

リヤ お前さんに、内々で一言たづねたいことがある。

ケント (グロースターに)もう一度お勧め申してごらんなされませ。お氣が狂ひかけたやうでござります。

グロ 狂ふが無理かい？

あらし尙つゝ。

現在の女兒たちが殺さうとする。あゝ、あのケント伯爵！ きつと斯うなるとあの仁がいうた、氣の毒な追放の身となつたケントが！……(ケントに)王はお氣が狂うたとお前はいふが、予みづからも殆ど氣が狂うてゐる。予に一人の忤がある、今は勘當してしまつたが、其奴が予を殺さうとしをつた、つい先だつて、つい此間 予は其奴を、世の親々には例の無いほど、可愛がつてゐたのぢや。實の事をいふと、其悲歎の爲に予の心は亂れた。……

あらし尙つゝ。

何といふ晩ぢやこれは！……(リヤに近づき)恐れながら……

リヤ おゝ、失禮ぢやが……(エドガーに)大先生、貴下にお話がある。

エドガ (顔をそむけて)トムは寒うござります！

グロ (エドガーに)やい、汝は其處の石小屋の中へ入れ。暖かにしてゐる

リヤ さあ〜、みんな入らう。

石小屋の中へ入らうとする。ケント止める。

ケント こつちでござります。

リヤ 彼れと一しよに。……予は先生と一しよにゐたい。

ケント (ケロースタアに) お氣に逆はんがようござります。彼奴をお伴れなされませ。

せ。

グロー (王に) 其奴をお伴れなされませ。

ケント (エドガーに) やい、來い、一しよに來いよ。

リヤ さあ〜、アセンスの先生。

グロー (皆々に) 黙つて、黙つて！ 叱。

エドガ (節をつけて)

暗黒城にぞ着きにける。

蟲きわたる其聲は

「モ、ンガア、モ、ンガア！

ブリトン人の血の香かするぞよ。」

皆々入る。

第五場 グロースタアの居城

コオンチールとエドマンドと出る。

コオン 此邸を離れる前に、其返報を致してくれう。

エドマ 子の道に背いて忠義を盡しましたのゆゑ、人にどのやうに言はるゝことかと、幾らか心配になります。

コオン

今となつて解つたわい、兄御があの人を殺さうとしたのは、必しも當人の悪心ゆゑとばかりはいはれん、恐らく然るべき理由があつて、即ち老人の方に何か恕すべからざる悪いことがあつたからであらう。

エドガ

(半獨白のやうに) 何といふ意地のわるい運命ぢや、正しい事をするのを悔まねばならんといふは！ (書面をコオンチャールに渡しながら) これが父の噂いたしました密書でござります、これによりますると、父はかね／＼フランス王に内通いたしをつたものと見えます。……おゝ、天よ、かういふ謀叛もなく、自分が其告訴人となるやうなこともなかつたなら！

コオン

夫人の許へ来て下さい。

エドマ

其書中の事が事實であれば、容易ならんことが差迫つてをります。

コオン

其實否は兎も角も、此褒美には、お前をグロースタアの伯爵に叙する。父の居所を突止めて來なさい、捕縛の出來るやうに。

エドガ

(傍白) 王をいたはつてゐる所を見附けでもすれば、一段と嫌疑が固くなる道理だ。……(コオンチャールに) 私はあくまでも忠義の道を守ります、忠と孝との心中の闘ひが何様に苦しうござりませうとも。

コオン

予はまたお前さんを信じて、父親以上に愛するであらう。

二人とも入る。

第六場 城に近き農家の一室

ケントとグロースタアと出る。

グロ

野原よりはましぢや。有りがたく思うたがよい。成るべくお安樂にならせらるゝやう工夫せう。直に戻つて參る。

ケント ありつたけのお智慧の力がお疔癩に負けてしまひましたのぢや。……御苦
勞にござります！

グロースター入る。
リヤ、エドガー、阿呆出る。

エドガ (地に耳を押附けて聴く振をしながら) フラテレットが予を呼んで、ネロが今地獄の
湖水で釣をしてゐると言つてら。……(阿呆に)おい、罪無しさん、悪魔に取附
かれんやうに禱んな。

阿呆 (リヤに) 教へとくれ、小父たん、狂人は、都武士かい、田舎侍かい？

リヤ 王ぢや、王ぢや！

阿呆 いんにや、田舎侍だい、其息子が都武士だよ。さうだらうぢやないか、自
分を後廻しにして息子を都武士にするのは狂人だからなあ。

リヤ (憤激して) 千萬の悪鬼羅刹に眞赤に熱けた鐵串を持たせて、彼奴らの喉笛目

かけて……

エドガ あゝ、悪鬼羅刹が来て予の脊中を噛む。

阿呆 狼を仁慈いと思つたり、馬を強健だと思つたり、小童の戀や賣女の誓言を
眞實にする奴は狂人だ。

リヤ さうしてくれる。すぐさま召喚してくれう。……(エドガーに) さあ、其許は此
處にお坐んなさい、最も博學なる裁判官どの。……(阿呆に) 賢明なる其許は
此處にお坐んなさい。……さあ、おのれ、牝狐めら！

エドガ あれ〜、あそこ、悪魔めが突立つて睨んでゐる！ 奥さん、お前さん目
が無いかい裁判所では？

阿呆 (節をつけて)

おぢやれ、ベッスや、河を越しておぢやれ。……
船が洩るから妻や往かれぬと、

いふにやいはれぬ胸のうち。

エドガ 悪魔めが鶯のやうな聲をしてトムに附纏ひまする。ホッペダンスはトムの下つ腹で、白い生の鯡を與ろつてわめきまする。吠えるない、黒悪魔め、汝に與る食物は無いや。

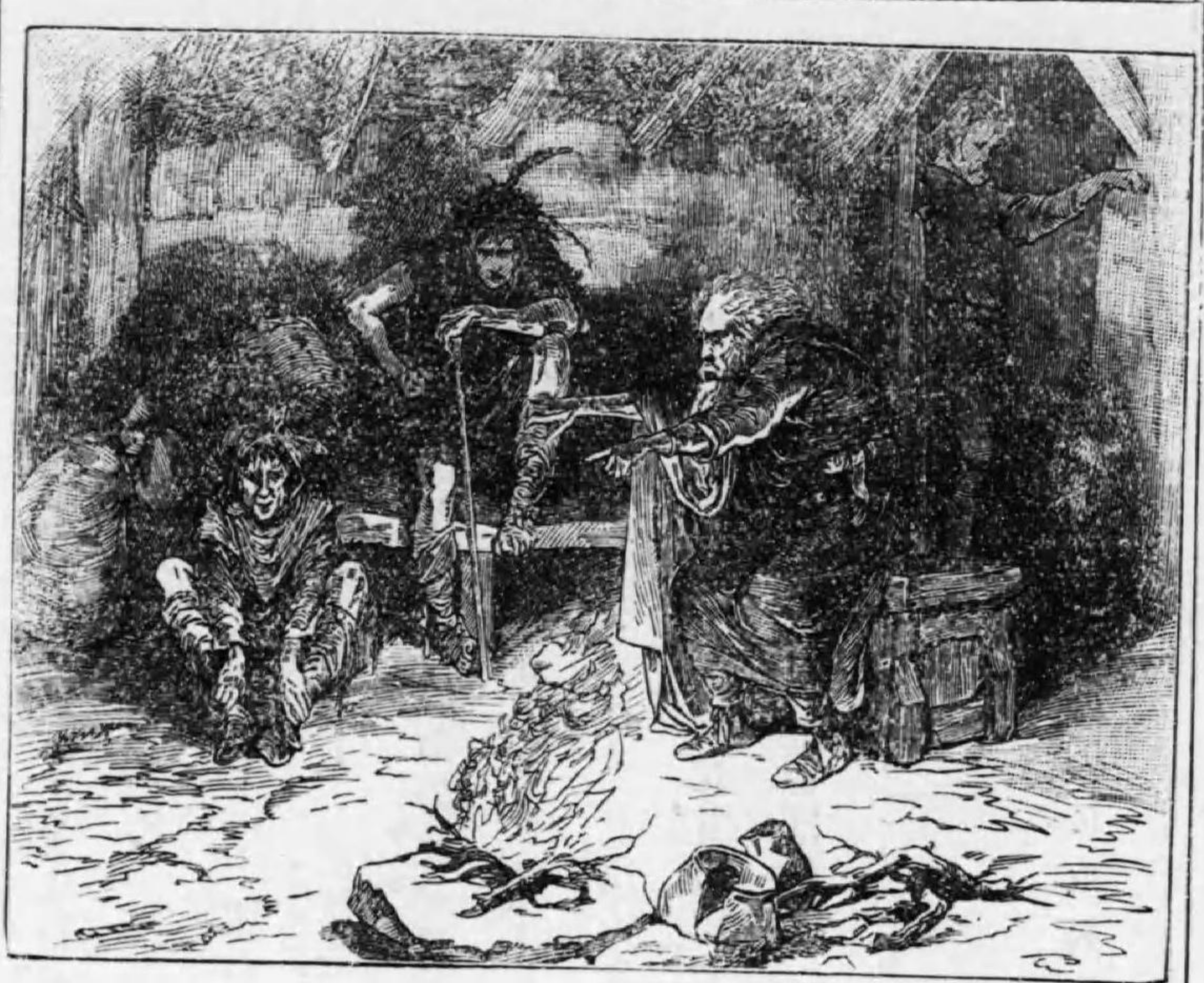
ケント (王に) どうなされました? そんなに呆れて立つていらつしやいますな。

ちつとお横になつて、蒲團の上でお休みになりませんか?

リヤ いや、まづ、吟味せう。……證人を呼び入れい。……(エドガーに) 禮服お着用
の裁判官どのには、お席に着かせられい。……(阿呆に) さて、其許、御同僚に
は其傍の床几に。……(ケントに) 其方は委員ぢやな、其方も其處に。

エドガ 公平に扱ひ遣す。

(節をつけて) 眠てか起きてか? 牧羊者どのよ。
ぬしの羊が麥畑荒す。



リヤ かはゆい口から一吹吹こと、
羊に害はありやすまい。
ぶるゝ! その猫は灰色だ。

阿呆 先づあの女めを糺問せい。あ
れはゴネリルぢや。名譽ある
方々の面前に於て、誓言の仕り
まする、彼女めは、現在の父王
を足蹴にかけました。

リヤ 奥さん、こゝへいらつしやい。
お前さんはゴネリルさんです
か?
否といふ筈はない。

阿呆 ですかい、御免なちやい 予はお前さんを豊床几かと思つた。

リヤ こゝにもう一人をりまする。その捻くれた面附が、如何いふ根性の奴かを宣言してをりまする。……留めてくれ、それ、其女を！ 警護の者は居らんか、武器を、劍を！ 此法庭には賄賂が行はれる、賄賂が！ やい、不正不義の裁判官、何故あの女を逃しをつた？

エドガ 五つの智慧をお守りなさりまする！

ケント お、お笑止！……（リヤに）堪忍を如何なされました、平生決してなくせんというて御自慢なされた其堪忍を如何なされましたぞ？

エドガ （傍白）お氣の毒で、涙がこぼれて、もう偽装しきれなくなつた。

リヤ 小犬どもまで、どいつもこいつも、ツレーもブランチもスキートハートも、悉皆予に吠えやあがる。

リヤ夥多の犬に取巻かれたと想像して逃げ廻る。エドガ

見かれて

エドガ トムが引受けて追拂つてくれう。……あつちへ去け、畜生！

黒でも白でも汝等が口で、
咬んだりや牙に毒がある。

唐犬、獵犬、雜種犬、

牝でも牡でもリム、スバニエル、
ぶつきら尻尾も捲いたのも、

トムが鳴かさいでおくものか。
そら見ろ斯うして放り抛りや、

犬めは半戸を飛んで逃げた。

エドガ 群犬を逐ふ爲をして藁の帽子を向うへ抛げる。

どででで。 せつさ！ さあ、祭へ往かう、市へ、買出し場へ。……

あゝ、トムよ、お前の面桶はもう空虚だ。

リヤ

すれば、リガンめの解剖を願ひませう。彼奴の心には抑々如何なるものが生育いたすか、それが取調べていたゞきたい。あゝいふ酷薄な心を醸し出す原因が、何か特に有るものでござるか？……(エドガーに)其方を予が百人武士の一人に召抱へる。たゞ其服制が氣に入らん。其方は、これは

ペルシャ式ぢやともいふであらうが、更へて貰ひたい。

ケント

御前さま、お横になつて、暫くお休みなされませ。

リヤ

静かにせい、静かに。暖簾を引け。さう、さう。なう、朝の間に夕食をすまさう。

阿呆

そんなら予や晝の間に寝よう。

リヤ

リヤ横になる。

ケント

グロースター出る。

阿呆

グロースター出る。

リヤ横になる。
グロースター出る。

グロ

(ケントに)こゝへ〜。……御主君は何處にぢや？

ケント

こゝにいらせられますが、そつとしておゝきなされませ。お正氣を失うていゝござります。

グロ

お前、どうぞ王を抱起いて下さい。お命を取らうといふ計畫のあるのを洩れ聞いた。昇床を準備して參つたによつて、それへお臥し申して、急いでドーヴァまで落延びて下さい、あちらへ參れば、歓迎も保護も得られる。

ケント

早う我君をば抱起いた。やう半時間ぐづゝいてゐると、王のお命もおぬしの命もお助け申さうとする者一同の命も無い。早う抱起いて、抱起いて、予に従いてござれ、路用其他を渡す場所へ案内するから。

ケント

(眠れるリヤを見て)疲れ果てた時には眠られる。此一睡で貴下の荒びた神經が幾らか和げられるであらう。かういふ便宜なことがないと、到底療治が届かんと知れん。……(阿呆に)さあ〜、手を貸して御主君を抱上げてく

れ。お前も後に残ってはゆかれんわい。

グロー さあ〜、あつちへ〜。

ケント、グロースタア、阿呆、リヤ王を拖上げて入る。

エドガ

目上の人々が、こちらと同様に難儀をするのを見ると、自分らの不幸を強ち怨めしいとも思はんわい。たゞ一人で難儀をするのが最ち辛い、安樂や愉快を後に残っていて。しかし心が大概の苦痛を忘れる、悲歎に伴があり、難儀に侶があれば。予の苦痛は今日は軽うなつて堪へよい、予の苦しみを王もまた苦しんでござると思へば。王は子の爲、予は親の爲に！……トムよ、彼方へ！ 此騒動の成行を見てゐて、讒言が正しい證據に破られて、おのしをば故の通りの身分にする時が來たら、名宣つて出い。……今夜此上に何事が起らうと、恙なう王のおのがれなさるゝやう！……かくれる〜。

エドガ 入る。

第七場 グロースタア居城

コオンチール、リガン、ゴネリル、エドマンド及び従者等大勢出る。

コオン

(ゴネリルに) 急いで早馬でお歸りあつて、アルバニーどのへ此書面をお見せなされて下さい。フランスの軍勢はもう既に上陸したのでござる。……(従者に) 謀反人のグロースタアを捜し出して參れ。

従者 一兩人入る。

リガン

すぐに絞り首になさい。

ゴネリ

目をえぐり取つたがよい。

コオン

處分は此方にお任せなさい。エドマンド、お前さんは姉上に御同伴なさい。謀反人たるお前の父に對して、只今嚴罰を下さんとするのを、子として見てゐるは穩かであらう。アルバニー公の許へ參つたら、大火急に手配なさるやう勸めて下さい。此方も同時に手配を致すから。双方互ひに早飛脚を以て、神速に事情を傳へあふことに致さう。……(ゴネリルに) 姉上、ごきげんよろしう。……機嫌よう、グロースタアどの。……

オスワルド 出る。

どうぢや、王は何處にぢや?

オスワ

グロースタアどのがお伴出しました。お附の武士たち三十五六人、必死と王のお行方を捜してをりましたが、大木戸の傍で王にお目にかゝまして、グロースタアどの、家來衆二三名と共に、王のお侶を致し、ドーヴァの方へ落行きました。ドーヴァには武装した身方が大勢あると中觸らい

てをります。

コオン

奥方に早馬を參らせい。

ゴネリ

(コオンチールに) さやうなら、御機嫌よろしう! 妹、ごきげんよう!

コオン

エドマンド、きげんよう!……

ゴネリル、エドマンド及びオスワルド 入る。

(従者に) 謀反人のグロースタアを捜して來い。窃盜同様に縛りあげて、予が面前へ伴れて來れ。……

従者一兩人 入る。

正式の裁判をせんで、死刑に處するのは不當ぢやけれども、腹が立つた場合には権力の濫用も是非に及ばん。……

グロースタア 従者二三人に引立てられて出る。

だれぢや? 叛賊めか?

リガン 恩知らずの狐爺！ 彼奴ぢや。

コオン 縛り上げい、其枯乾びた腕を。

従者 立ちかゝる。

グロー コりや如何なされます？ お二人とも善うお考へ下され、貴下がたはお

客人でござるぞ。 非道なことをなされますな。

コオン ふんじばれといふに。

大勢 立ちかゝりてグロースターを縛す。

リガン きつく、もつときつく。……おゝ、さもしい、穢い謀反人め！

グロー もぎだうな奥方、さういはれる覚えはござらん。

コオン その椅子へ縛りつけい。…… 奴隷め、今に見をれ……

大勢 にてグロースターを椅子へ縛りつける。 リガン 立ちより
てグロースターの髻の一部分を握みて引抜く。

グロー 神々も照覽あれ、此髻を筆り取るとは、餘りといへば無法な、無慚な！

リガン こんな真白な髻をしてゐながら、謀反をしをるとは！

グロー 非義非道の奥方、こなたが、此願から筆り取つた其髻が、一筋々々生返つ

てこなたをば呪はうぞよ。 こなた達は客、予は主人ぢや、其東道の生面を、

強盗同様の暴力を以て、此様に辱しめるとは無法千萬。……何とせうとす

るのぢや？

コオン さ、言へ、汝がフランス王から近頃受取つた書面とは、如何なる書面ぢや？

リガン 真直に白状せい、證據はもうあがつてをるから。

コオン 近頃當國に上陸した謀反人共と汝との間に、如何いふ陰謀が成立つてを

リガン 狂人王をば誰れの手へ渡した？ 申せ。

グロー 謎のやうに認めた書面をば受取りましたなれども、それは何れへ心を寄す

るともない者から送りこしましたので、敵方からではござりませぬ。たくんだな。

リガン そらくしう。

コオン 王をば何處へやつた？

グロー ドーヴァアへ。

リガン 何故ドーヴァアへ？ 豫てさやうなことを致すに於ては……

コオン 何故ドーヴァアへ遣つた？……先づ其返答をさせい。

グロー (獨白のやうに) 杭に縛りつけられたからは、犬責にも遣はねばならん。

リガン 何故ドーヴァアへ遣つた？

何故なれば、其殘忍な爪で以て、あのお氣の毒な老王の兩眼を、お前がえぐり取るを見るに忍びんからぢや。又あの猛惡なお前の姉が、野猪のやうな牙で以て、神油を塗つた王の肉體を貫くのを見るに忍びんからぢや。

黒闇地獄の暗の夜に、王が素肌を受けなされたあやうな暴雨に遭うては、大海も空に逆巻き星の火をも消したであらう。それぢやのにお氣の毒や、王は手傳うて雨をお降らしなされた。よし狼でも、あんな手ひどい晩には、若し門口で唸つてゐたら、「門番よ、入れてやれ、平生の悪い事は差許いて」と言はつしやらねばならん所ぢや。併し、今に見ようわい、かういふ不埒な子供らに、天罰の下るのを見ようわい。

コオン それを決して見させぬわい！……やい、其椅子をしつかり持つてろ！……

從者ら立ちかゝりてグロースタアを椅子に縛りたるまゝ、押附へてゐる。コオンナール立ちよりて

おのれ、其眼を踏みにじつてくれう。

グロースタアの一眼をへぐり取り、地に抛ちて足下に踏みにじる。

グロー

齡としを取るまで生きてゐたいと思おもふ者は助たすけてくれい！……おゝ、殘忍ざんにんな！
おゝ、神々かみかみ！

リガン

かたくだけでは見みつともない。そつちの目めも。

コオン

おのれ、天罰てんばつの下くだるを見みるなぞと吐ぬかしをれば……

コオンチール再びグロースターに立ちかゝる。従者の一人見か
れて横合より躍り入りて支へる。

従甲

まゝ、お止とどまりなされませ！ 私わたくしは幼少せうせうから御奉公ごほうこういたしましたが、只今ただいま
おとよめ申まうしますのが、此上このうへも無い忠義ちゅうぎと存ぞんじまする。

リガン

何なにをする、畜生ちくしやう！

従甲

(リガンを覗みて) こなたに髻ひげがあつたなら、其分そのぶんにや濟すまされんが……

コオンチール劍を抜きかける。

何なにをなさる？

コオン

うぬ、奴隸やつての癖くせに？

コオンチール劍を抜いて突きかくる。

従甲

さういふ氣きなら、さあ、お敵手あひてになりませう。腹はらを立たちや用舎ようしゃはござりま
せんぞ。

突いて來るのを引ひきすかして抜合せ、闘ふ。皆々驚き騒ぐ。

其中にコオンチール手を負ふ。リガン氣を採む。

リガン

其劍そのけん、こつちへ……

乙の従者の劍を引奪ひつたくりて

農奴ひやくしやうめ、これでも見事みごと？

甲の従者を其背後から突く。

従甲

おゝ、やられた！……

従者甲倒れながら、グロースターに

御前、残つた目で御覽なされませ、あなたの當の仇敵に、手傷を負はせてやりました。……おゝ！

從者 甲息絶ゆる。

コオン 汝、もう何も見ることの出来んやうに。……

クロースタアに躍りかゝりて、又其一眼をえぐり取り、地に抛ちて踏みにじる。

うぬ、穢はしい者凝汁め！ さあ、何處か光るところがあるか？

グロー

眞闇で、眞闇で、何一つ心の慰むものも見えん！ 我子のエドマンドは何處にをるぞり？ エドマンドよ、有る限りの孝子の情を奮ひ起いて、此怖しい悪行の復讐をしてくれいやい！

リガン

だまれ、二心の悪黨め！ 汝が呼立てる其エドマンドは汝を嫌ひ憎んでゐる。 汝の二心を吾々へ訴へ出たのはエドマンドぢや、彼れは汝を憫然

グロー

に思ふやうな悪人ではないわい。

おゝ、おろかであつたわい！ ではエドガーは讒言に遭うたのぢやな。 神々さま、ゆるいて下され、彼奴を幸福にしてやつて下さりませ！

リガン

大木戸の外へ此奴を突出し、ドーヴァアへ往きたくば、鼻で嗅ぎくへ行けいと言へ。……

一從者クロースタアを引立てゝ入る。

コオン

(コオンチャールに) どうなされました？ まあ、其顔の色は？

手を負うたわい。 従いてお出なさい。……(從者等に) 盲目めを叩き出してしまへ。…… 其奴は塵埃溜へ放り込め。……リガンの、おそろしく血が出るわい。 悪い時に創を受けた。 腕を借して下さい。

リガンに介抱されてコオンチャール入る。

從乙

予や如何な非道な事でもする氣になるなあ、あんな人でさへ平氣で榮える